大正四年六月[illegible]
明治卅七年五月七日第三種郵[illegible]



女子青年界

第十二巻第六號

要目

女子青年會第十二巻第六號

目次

YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume XII June, 1915 Number 6.

大正四年七月二十一日より
同　二十八日まで
神奈川縣。横須賀大津。勝男館

第十回
女子夏期修養會

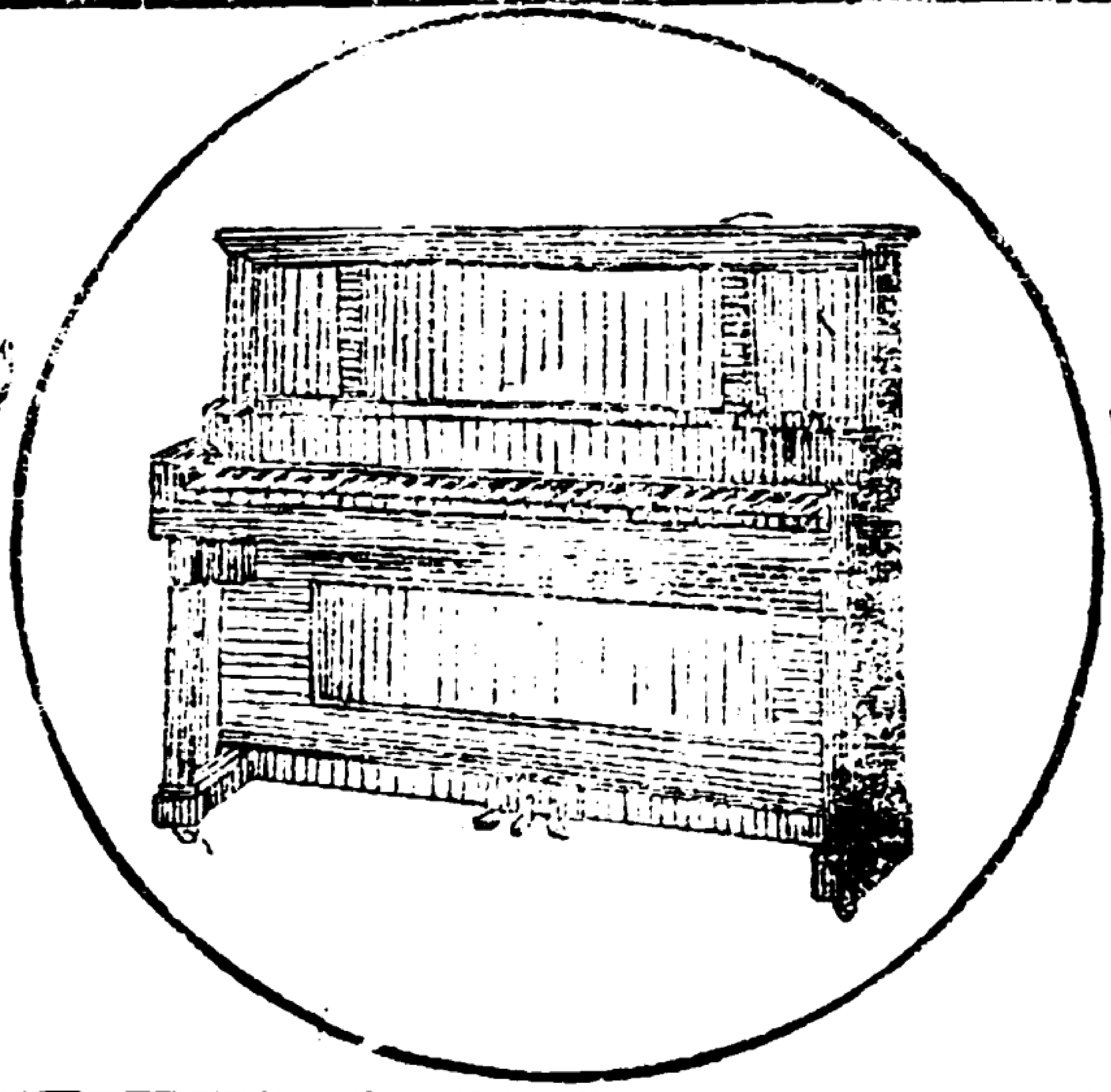
申込は成るべく至急に本部へ。詳細は申越次第回答す

日本基督教女子青年會本部

東京市牛込區田町三丁目十二番地
電話番町四五六三番
振替口座東京貳参七貳参番

ピアノ・オルガン







上流家庭の流行

として近來西洋音樂熱が熾になつて來ましたこれは鎌田大學總長の言はれた如く「日本音樂は單純で趣味が偏して居つて時世に伴はぬため根底のある而して幾千年來比較研究された結晶藝術である西洋音樂が當然替りつゝあるのでありますが此の秋に

日本一の

ヤマノピアノ

の出現は、特に我樂界の福音であります音樂學校のショルツ教授が初めて彈奏して日本に於て第一着に賛辭を寄せられたのは單に本店の光榮であるのみならず正しく斯界の前途に對し一層の祝福であると信じます。

西洋樂器一切

新版目錄送料貳錢御送付次第進呈可仕候

松本樂器合資會社改め

東京 ヤマノ樂器店 銀座

電話京橋二二九八 振替一三五〇五

AMERICAN BIBLE SOCIETY

TELEGRAPHIC ADDRESS "BIBLES YOKOHAMA

英語改正譯(米國)聖書

□ルビー活字改正譯新約全書（三寸[illegible]分—二寸一分）

總金巾	拾錢
總皮金緣	參拾錢
上製總皮金緣	五拾錢
上製折皮金緣	六拾五錢

□ノンパール活字改正譯新約全書（三寸八分—二寸三分）

上製總皮金緣 上等紙 MITHAS. ZE付	壹圓五拾錢

□ミニオン活字改正譯新約全書（三寸八分—二寸八分）

總金巾	貳拾錢、參拾錢
同 詩篇付	參拾五錢
總皮金緣 紙函入	六拾錢
折皮金緣 同	七拾五錢
總皮金緣 詩篇付同	八拾錢

□パイカ活字改正譯新約全書（四寸九分—四寸一分）

上製總皮金緣 詩篇付	貳圓五拾錢

□改正譯英語舊新約全書は五十錢より各種

□定價表御申越次第送呈

各國語聖書發賣所

横濱市山下町五十三番

米國聖書會社

振替貯金口座 東京 壹八四壹〇番

◉御半襟と腰紐類

▲女裝の生命

▲忠僕にして忠婢

窮りなき流行界の威力は今や夏向き新柄の上に進展し、一瀉千里の勢を以て流行の焦點たる服裝より、服裝の眼目たる女裝、女裝の生命たる半襟の上に集注致し候、而して弊店は例に依り半ゑり界の忠僕、腰紐界の忠婢として精々勉強仕る可くに付陸續御用命奉希候

神田區一ツ橋通町十六番地

二京商店

院長診察（月、水、木、金、午前／入院診斷後應需）

松田、林、峰間、三副長は目下當院に在勤

東洋内科醫院

電話本局 八八八（病院用）八九八（私宅）

東京市神田區駿河臺鈴木町二

御茶水橋附近

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣高座郡茅ケ崎町相海濱

從停車場半里

南湖院

電話 チガサキ 二番

河野、高橋、兩副長は目下當院に在勤

院長診察、土曜日午後、入院、診後應需

◎常盤唱歌集演藝集第一、第二

孰れも定價金四拾錢、郵稅金六錢

◎舊約新書一年研究 定價金四拾錢 郵稅金六錢

◎耶蘇一代記 定價金貳拾錢 郵稅金四錢

◎聖書修身談 定價金貳拾八錢 郵稅金四錢

◎日曜學校五十教課 定價金八錢 郵稅金貳錢

◎文字の話 定價金拾貳錢 郵稅金貳錢

◎十誡の話 定價金參拾錢 郵稅金四錢

右の外日曜學校教師諸君の用ゐられて有益なる雜誌も亦生徒諸子に與ふる面白きカードなど澤山取揃へ有候間目錄御入用之御方へは御申越次第直に進呈致すべく候

横濱山手三十七番 常盤社

會説

人の事をも顧よ

今や歐洲の天地は戰亂の巷と化して、すべての文明は破壞せられ、有らゆる蠻行は行はれて居る。戰爭が始まつてから最早一年に近いが、中々止みさうにもない。英國の陸軍大臣は「戰爭は何時終るでせう」と問ふたものに對して「何時終るのか知らないが愈これから戰爭が始まるのだ」と答へたといふ話また頃日の歐洲電報は是迄中立であつた伊太利も三國同盟を破棄して戰爭の仲間入をして獨墺に對して宣戰をしたと傳へて居る。そして其の慘憺たる妖雲は單に歐洲の上を蔽ふに止まらない、其の影響は全世界に及んで、諸民の哭き諸族の哀となつて居る。

さて、斯のやうな慘憺たる戰爭は何故に始まつたか、起るべき筈でない此の二十世紀の文明時代に何故に斯かる忌はしい戰爭が起つて來たかといへば、申すまでもなく獨逸の軍國主義に原因して居るのである。勿論事のこゝに至つた手近い原因は幾何もあるでせう、けれども獨逸には元來世界唯一の大帝國を建設したい謬想があつて、これを遂行するためには如何なる犧牲をも辭しないといふ考がある。此の根本に横はつて居る思想が如何な場合にも頭を擡げ

て、終に今次の戰爭の如きも乘ずべき機會を得たと思ふてやり出したといふ事は爭はれない事實である言ひ換へると、獨逸は自國の位地と利益のためには他を顧みる心がない、他を蹂躪しても己の位地を高めたい、他を廢滅せしめても自己の利益を得たい、其のためには如何なる我儘も如何なる勝手も仕通す即ち國家經營上の自己本位を以て主義方針として居ることが、今回の大戰爭を惹起した根本的の因由となつて居るといつてよいのである。

しかしながら、公平な目を以て考へて見ると、此の自己本位といふ事は、單に獨逸だけといふ譯には行かない、其の程度の相違こそあれ、世界列國の中で何れか此のために捉はれて居ない國があらう、寧ろこれが國家を成す上に於ての共通的の方針となつて居ると見る方が適當であつて、現に彼方にも此方にも常に國と國との紛糾が絶へず、國際上の難問題に艱まされて居るのは、お互に自國の利益を擴張するとか、自國の權利を保護するとか、すべて列國が共通的に信奉して居る自己本位の信條から割出した手前勝手と手前勝手の衝突に外ならないのが少なくないではあるまいか。

斯くの如く此の自己を先にする心――自己中心主義は、今日の國際上に禍因をなして居るのであるがそれのみならず、更に家庭の上にも個人の上にも、怖るべき禍因を藏して居る。

舊約聖書の始の方を讀んで見ると、人間の社會に起つた最初の殺人犯の事が書いてある、それはカインが弟のアベルを殺害した事柄であるが、何故此の兄弟がそんな淺ましい間柄になつたかといふと、それは斯ういふ次第なのである。此の兄弟は始祖アダムの子で、兄のカインは土を耕すもの即ち農夫になつたが、弟のアベルは羊を牧ふもの即ち牧者になつた。そして或時此の二人は各其の生産の所得を携へて神に献げた。すると神は弟の献げた初生の羊を喜び給ふたけれども、兄の献げた菓物は顧み給はなかつたので、カインはこれを見て非常に立腹して終に

弟のアベルを殺してしまつたのである。

私は、今茲に、神が何故に弟の献物を喜んで兄の献物を顧み給はなかつたか、其の理由を詮索しようとは思はないか、唯此の事柄の隠れた方面について一言して見たい。即ちカインが弟を殺した動機は自分の献物が神に喜ばれなかつたに在るけれども、猶一段深く考へて見ると、カインは自分の献物によつて神の喜びを得たいと思つたに相違ない、弟を差しおいても先づ自分が神から喜ばれたい心があつたに相違ない、少なくとも弟に勝らなくとも劣らない褒言を望んで居たに相違ない。處が豫期に反して神の意に適はなかつたのみならず、却つて弟の献物は喜ばれて自分のは見向きもされない。豫期した所に對しての満足は少しも與へられない。茲に不平が起り疑念が起り怨恨が起り憤怒が起り、終に肉身の弟に向つてあられもない大罪を犯すに至つたのである。斯く考へて見ると、カインの罪は己を先にしたい、弟に先つて神の褒言を得たいといふ自己中心即ち自己を本位とする心があつて、其の満足を得られなかつた結果であるといふことが出來る。

そして此のやうな事柄は決して開闢の始にだけあつた悲劇ではなくて、爾來幾萬千年を經過した今日に至るまで、常に我が人類の社會はこれが爲に苦められ、艱まされ、破壊されて居る。文明進歩を誇る現今の世の中に於ても、新聞紙の三面に現はれる斬るの殺すのといふやうな悲慘痛酷な事實は多くは同型の事實であつて、何れか自己主義の恐るべき徴證でないものがあらう。

私は毎日電車に乗る。いつも不快に感ずるのは乗客が我勝ちに乗込む有様の殺風景極まることで、或時は怖しくも思ふ程である。此間も神保町の停留場で新宿行の電車が來ると、其の日は雨降りで恰度午後の四時過、大分雜沓する時刻であつたが、待合せて居た乗客が我勝ちにと乗込む有様は實に非常なもので、少し油斷があれば突轉がされそうな形勢である。一人の婦人が風呂敷包を抱へて電車の踏臺へ上

りかけると、一人の倔強な男が巣鴨線の方から駈けて來て、乘りかけて居る今の婦人を押しのけて乘らうとする。乘りかけて居る婦人を先づ乘らせてやつてから續いて自分も乘つたらよからうと思ふのに、中々さうでない、力まかせに人を排して、どし／＼割込む。そんなことで婦人はまご／＼して居る間に電車は動き出す、終に乘ることが出來なくて次の電車を待つたが、次の電車も滿員の大混雜でとても乘れない、其の婦人は荷物を抱へながら、雨中に立往生して第三電車を待つて居た。こんな事は電車では普通の事で誰れも怪しまない處であらうが、考へて見ると自己主義の弊は實に此の邊にまでも及んで居るのである。

更に電車の内の有樣はどうかといふと、此處も亦自己主義の弊が遺憾なく暴露されて居る。それもつい此間の事であつたが、私が九段上で兩國行の電車に乘ると、大分乘客があつて空席がない、釣革にすがつて立つて居る人が多い、私も釣革にすがつて立つて居たが、すぐ前にも一人の老婦人が釣革に取すがつて居る。間もなく九段下へ來ると、二人の青年婦人が立つて其の老婦人に「おかけなさい」と注意しながら下車口の方へ行つた。老婦人は喜んで讓られた席へ着かうとしたが、其の先に立つて居た瘠ぎすな洋服紳士が、其の二人の娘が老婦人に席を讓つた事を知つて居るにも拘らず、急に體を斜にして割込んで來て、二人の立つた跡の眞中へ座込んで、そして二人分の席を一人で占めて、瘠せた身體を殊更角張つて肩を怒らし肱を張つて傲然と構込んで衣嚢から新聞を出して悠々と讀み始めた。老婦人は折角讓られた席を突然瘠ぎすな紳士に横領されて茫然として居る。私は小面憎く思つたので、其の紳士に一方へよつて老婦人の爲に席を與へるやうに忠告したことであつたが、一體に電車道德などは格別に幼稚であつて、家に在つては九尺二間に親子夫婦が窮屈に暮して居るやうなものが、電車に乘れば肩を怒らし膝を張つて腕組をして横廣の仁王樣然と意張つて見

たい風がある、老人や子供が入つて來ても目を眠つて知らない風をして席も譲らないといふやうな風がある、前にいつたやうな例はいくらも實見する事である。今日の時代は隨分公徳の養成などと、やかましく論議せられる時代であるし、また其の心得のある人も多いのであるが、それで日常の事になると個人々々の行爲は實に斯の如くである。電車で席を譲らない、纖弱い婦人をも顧みないのは一小事に過ぎないといはば、さうとも言はれないでもないが、しかし此のやうな所から手前勝手や自己主義が芽を出して來るのであることを忘れてはならない。前に申したカインは弟の爲に神の喜の席を譲る心がなかつたので大罪に陷つたではないか。又現に獨逸は自ら第一位を獨占したい妄念から歐洲今次の動亂を惹起して居るではないか。彼と此と事態の輕重大小の相違はあつても、其の根本は一つ、起點は即ち同じである。若し今日に於て斯かる自己主義自己本位の濁潮を遮ることが出來ないならば社會人心の荒廢は終に救ふことが出來なくなると思ふ。

凡そ私共が此の世に處して行く上に於ての立場は二つであつて、其の一は即ち「己を先にする」ことであるが、これは先づ己の爲にして後に他に及ぶ餘裕があれば他にも及ぼさうといふのであつて、これが原因となつて大にしては世界の動亂を惹起し、小にしては電車内の公徳でも行はれないことになるのは上に述べた通りである。

さらば第二は何であるかといへば、これは「人を顧みる」ことで、常に私共が處世上採るべきの立場であらうと信ずる。世には己を見るに急で、更に他を顧ることの出來ない人が多い。又己を措て他を顧るのは全然誤謬であると考へて居る人もある。けれども社會の平和、家庭の幸福、個人の安心が大切であるならば、どうしても私共は立脚點を「人を顧みる」ところに置かねばならぬ。保羅は「己がことのみを顧みず人の事をも顧みよ」といつたが、眞に處世の要訣は茲に在る。己を忘れて他を顧ることは

即ち甚着の大精神であつて、これが實に麗しい人の心の發現である。果して人が神らしくなることが出來るものならば、それは己を忘れて人の爲にする精神の發動するのに外ならないと思ふ。これによつて天地に平和があり、人生に幸福があり、慰安があり歡喜があり、光明がある。

佛國に一人の富豪があつて、有り餘る金を抱いて居ても何の爲す所もなく暮して居た。もとより身分が身分であるから宏大な邸宅を構へ、美衣美食に飽いて、天下羨望の中心となつて居たのであるが、其の人自身に取つては何等の歡喜も愉快も感じない。貧乏人は金を儲けることは希望ともなれば慰安ともなるかも知れないが、浴びる程の金を有つた人に取つては、金も富も却つてそれが苦痛の種であつた。彼は此の世の富に飽果てて、其の結果、厭世の心が起つた。煩悶に煩悶を重ね憂苦に憂苦を重ねた極、終に死を決して家を出たのである。そして死場所を探して或る川縁を彷徨つては居たものの流石に投身も仕かねて居ると、ふと岸の下に在る一破屋を見てこんな家にも誰か住んで居るのかと、岸を下りて其の傍まで行つて見た。處が家といふも形ばかりで、實に哀れな一家族が居る。夫は瘠せ果てた身を寢床の上に横へて寂しい眼を光らせて居る。其の側には破衣を纏ふた妻が泣く兒を膝の上に抱いて首をうな垂れて居る、外に二人の子供もあつて飢に泣いて居る。此の光景を見た富豪は世には此のやうな家族もあるかと、只管に惻隱の心が起つて、衣嚢から若干の銀貨を出して恵んだ。其の夫婦親子の歡喜と感謝は一通でなかつた。富豪は茲に始て未知の愉快を感じた、同時に處世の道と人生の意義を發見した。即ち其の富豪は自己を以てすべての中心とし本位とする事は當然の事のやうに點頭れる事であるが、しかし其の結果は平和と幸福を作るやうに見ても、到底破壞である。浴びる程の富も心の滿足には何の役にも立たない。これに反して「人を顧みる」即ち人の爲にすることとは自己を失ふことのやうであつても

それが愉快であり滿足であつて、人生の價値も意義も玆に存することを悟つて、新しい光明を認めて憂悶や煩苦や死の間から甦つて、慈善事業を企て終生を哀れな人々のために捧げて、幸福と平和に送つたといふ事である。基督が仰せられた「生命を保全せんとする者は之を失ひ、我が爲に生命を失ふ者はこれを保全すべし」との眞諦は蓋し玆にある。

一友人が前年感化事業視察の爲に米國へ行つて、歸つて來てから其の視察記を著して、頃日それを上梓して私へも一本を贈つて來た。其の中に一の感ずべき事柄を見たのである。それは其の友人がエルマイラの監獄を視察した時の事であつたが、其の監獄の典獄が首唱して獄裡の囚人七十人を選んで、各種の技藝音曲歌舞の大演奏會を催さしめた。そして一人一弗の入場料を取つて公衆の觀覽を許した。隨分澤山の入場者もあつて可なりの收入があつた。私共普通のものから考へると監獄に在る囚人にそんな會を催させるといふさへ思ひも寄らないことであるが況して入場料まで取つて一般の人々に觀せるといふのは益々意外に感ずる。しかしエルマイラ監獄の典獄はマクドンネルといつて永年囚人の良化遷善の爲に勞した經驗のある人である。其の經驗上、囚人に人としての自己の價値を認め又自重自制の念を起し道念を高くせしむるには、囚人でも亦社會の爲他人の爲に生存する理由があることを確信せしむるのが大切であるといふ所から、此のやうな催しを首唱したのであつた。さうであるから其の演奏會の收得は殘らずエルマイラ附近の貧民救助の資として市役所に寄贈した。かくて囚人は身は社會に容れられない囚人であつても猶ほ貧民を救助する程の善を爲すの機會を得たことを深く感じ且つ喜んだといふ事柄が書いてあつた。

私は此の話を讀んで頗る面白く感じた。囚人となるものの多くは自己を中心として社會を害ふものであるが、これを良化する道は其の自己中心の立場を離れて人の爲に善をなさしめるに在るとすれば、私

其の修德善行の基礎も亦此の自己を先にせないで、「人の事をも顧みる」に在ることを證據立てる所以であらうと信ぜざるを得ない。

考へて見ると基督の生涯は己を忘れて人の事を顧みるといふので一貫して居た。其の十字架に釘けられる場合でも、なほ己の杯を取去らんことを願へども決して己の意を成さんとは爲し給はなかつた。保羅は「基督すら己を喜ばすことをせざりき」といつて居る。私共が世に處する上に於て尤も大切なことは常に此の基督の精神に傚つて其の足跡を蹈むべきである。

知らず、私共は此社會に於て家庭に於て學校に於て寄宿舎に於て友人との交際に於て、常に自己中心の奴隷になつて居ることはあつても、どれだけ己を忘れて人の爲、世の爲に盡して居るでせうか。お互に反省して基督の精神を實行することと其の普及の爲めに努力せねばならんことであると思ふのである。（松宮生）

◎溫故片々

辻村靖子

○春秋の筆法　世上のある出來事を批評論斷するに大義名分を明にある筆つきを以てし、敢えて聊も假借するなく、强國にもせよ權貴にもせよ、忌み憚らず其功と罪とを褒貶黜陟するを云ふ。元來春秋とは一年中のできことを記すの意味にて、支那春秋の世の各國の歷史なり。三千年前のむかし、大聖孔子か、其社會の泯亂を憂ひ方正謹嚴の筆をもつて其歷史を削りてかきたるより春秋の筆法とは云ふいかに威權ある文字なりしかは、語に「孔子春秋を作りて、亂臣賊子恐る」とあるにても知られたり。

○米國に於ける河井總幹事宿所は左の通り

c/o Miss Janes,
319 Russ Building,
San Francisco, Cal.,
U. S. A.

豊かなる生命

三谷民子

世の中には學術工藝政事の上から種々の事に關して多くの問題がありますが、つまりは、盛が亡か、生か死かと云ふ事に歸着するのであります。

生の世界に生命を受けて居る私共は、死と云ふ事はさて置き、先づ生命と云ふ事について考へて見ようと思ひます。イエスキリストは「我來りしは生命を與へ、且つこれを豐ならしめん爲なり」と言はれて居ります。先日、太陽と云ふ雜誌に與謝野晶子さんの面白い話がありました。「日本の人は皆神經衰弱に罹つて居る樣である、電車に乘つて見ると午後なら未だしも朝から居眠りをして居る、誰にでも御機嫌如何ですかと問へば、まあどうかかうか生きて居りますと答へる、而してこの「どうかかうか」の原因は食物にあるらしい、何も全然西洋風にせよと云ふのではないが學校や講習所で教へる料理は、單に外形の美しさのみで其滋養の如何にはあまりかまはない樣である。私も電車に乘つて今こそ居眠りによき機會であると思つたり、大病も患はないのに身體が何となく重かつたりする」と書いてありましたが、私も本當に左樣思ひます、又私の西洋の友達は西洋に居る間は出ないけれども、日本に歸ると欠伸が出るこれは空氣の故であるとよく申しますが、空氣の故であらうと食物の故であらうと何しろ玆に何か改良すべき點があるに相違ありません。

これを精神界の方から考へて見ますとキリストが私共を信者となし給ふたのは決して終りではありません。これが生命の始めであつて、これから益々發達さすべきもので御座います。元氣とか勇氣とかは

皆生命の代名詞であつて、本當にこれ等を働かさなければ眞に生きて居るとは申されません。よく考へて見ますと、自分もやうやく生命を續けて居るのに他人に與へるなど〻云ふ餘裕はとてもないと思ひますが、馬太傳にも馬可傳にもある通り、キリストが大多數の人々に向ふて終日說教せられて日の暮れか〻つた時に弟子達は主に向ひ暗くもなり、饑くもなりましたから御かへし遊ばしては」と申しました時にキリストは弟子達に「汝是等の者に食を與へよ」と申されました。其處に集まつてゐた者は婦人と子供の外に五千人も居りました。是は大變むづかしい事の樣で御座いますがそこには材料がありました、即ち五匹の魚と二つのパンで御座いました、そして是が皆に與へられました計りなく其餘りが十二の籠に滿ちたと云ふ事であります。裁判所で種々の罪の爲に裁判を受ける人々に其の信仰を問ふて見ますと私の父は何、私の伯父伯母は何と他人の宗教は申しますが自分に確乎たる信仰のある者は少ないのです、さうして見ると何處の店で何樣な食物を買つてよいのか解らない者が澤山居ります、この人達に適當な食物を與へるのは私共の責任で御座います、けれどもやつと生きて居る計りの私共にこの責任が果せるで御座いませうか。併し「我に持ち來れ」と言ひ給ふ神を後に控へて居るのであると云ふ强い觀念さへありますれば出來ない事はないので御座います。而してこの豐なる生命に必要なる空氣を私は祈に譬へたいと思ひます。聖書にもよく祈をせよと書いてありますが本當に祈りは豐なる生活を送るに缺ぐべからざるものでありまして、食物となるべきものは聖書研究又は種々の御話を聞く事で御座います食物によく私共は撰り嫌を致しますが、私は時々自分の讀む聖書にもかう云ふ事をしては居らないかと考へて見ますと默示錄はいつもむづかしいもの解らないものとして通しては仕舞ひます。けれども舊新約を通じて凡てが自分の滋養になる食物であると考へます時に撰り好みをしてはならないと云ふ事を感ずるので

御座います。

祈の呼吸をして、聖書の食物を頂いた後は何うすべきでありますか。運動即ち活動をしなければなりません。死海は漫々と水を湛へながら一匹の魚も住はせる事が出來ない、故に死海と呼ばれて居ります。私共も空氣や食物を得ましても働なければ死も同様なので御座います。昔荒野でイスラエル人がマナを拾つた時に無性な人達は二日分も一度に拾つて置きましたところが翌日はそれが腐つて要にたゝなかつたと云ふ事であります。

無性は信仰上大禁物で御座います。

（講演摘要）

實力の養成

森村市左衛門

私の常に思ふて居る事は日本の前途と云ふ事であります短い時間に、とても御話しつくせるものではありませんけれども其大略を御話しいたしませう。

今の世界の戰歐洲の戰亂が終には此結果が東洋に波打つて來る事を心配して居ります。皆様の熱心なる精神上の御話を伺ひましたから私が致す必要はないと存じます。私は商人故商人の方の事は熟知して居ります。此方面より皆様にお願ひいたし度い事があるので御座います。殊にお若いお方におねがひいたし度いのが切で御座います。只今の戰爭の有様、何れが勝つか存じませんが、愛國心と宗教心の強い方の國はたとへ戰が破れても再び起つて自覺する時が來るが、日本人の如きは斯くの如き場合には如何するか、先に我國は廿何億萬の借金をいたしました

が五年たつた後にも返却が出來ぬ、政府では積みたてゝは使ひ込みして今に返す事が出來ぬ。然し彼の普佛戰爭の時は借金を直に返却致しました。此れは政府が返したのではなく國民がかへしたのである。つまり愛國心が强かつたからであると存じます。

日本は何時返す事が出來るか、年々の經費を立てゝ行き終には返したきもので御座います。將來此の國民は如何するか容易ならん事で御座います。婦人の方にたしかに此點に於て働く可き事が多くあらうと存じます。此時に當り東洋の國の富は如何か又何處に商ひせねばならぬが、日本人は手をつかねて居るのでは國の發達する道がなくなつてしまふ。此樣な事を心配仕出すと夜もやすまれなくなつてしまひます。

學者政治家に此心が無ければ仕方がありません。六千萬の國民に訴へまして大に自覺し度きもので御座います。明治の御代になりしも皆廿や卅の青年の働きによつてゝ御座います。世界一等國と肩を並べて行けるだけに成り度きもので御座います。日本人は健康が勝れぬのも働きが少いからであると思ひます。明治の御代に依り婦人や商人は人間並に扱かはれる樣になつてまゐりました當時はしたがつて心も力も弱くしつかりした心の畑が出來て居らなかつたので御座います。此間迄私の宅に居りました下女は大した力持で御座いまして大抵の男はかなはぬ位で御座いました。これも下女の幼き時より力業の働きをなした結果で御座います。東洋の人は力がなく、意氣地が御座いません。第一體を丈夫にする事が必要であると存じます。知識も進め度い、數十百の博士が出來ましたが何れもこれと云ふ物を發明されて居りません。獨逸から品物が來ぬとて大騷ぎをいたす樣な始末。誠になげかはしい事で御座います。婦人の知識の進まぬ事、臺所衣服の事に就いても御話いたし度う御座いますが時が御座いません故此次にいたします。

家庭の社長は誰か、主婦で御座います。如何して

も體を丈夫に知識をみがき、如何に廉價で立派に家庭を整理する事が出來るかと云ふ事も確に婦人に責任ある事で御座います。是等が滿足であれば結構な事と存じます。婦人は國の畑であり國の光で御座います。光りのない國は駄目で御座います。金モールをつけた樣な心では役にたちません。但し國や靈は飾りではなく靈を基督教にて磨かねば本當の物が出來ません。時計の針の樣にたゆまず死ぬ迄働かば立派な國民が出來ます。長い長い大和民族を何時か終り幾年か前には日本國民と云ふものがあつたなどゝ後に云はれる樣な事があつては死んでも私は死に切れぬ心地がいたします。今の實力體力を以て眞面目に成りて進行し今願ふ樣な靈を注ぎ込んだならばいやでも立派な國民が出來る事は信じ且祈つて止まぬ次第でございます。

故ダッチ女史

本誌三月號にダッチ女史の事どもを大體御紹介申上げましたが、此度米國女子青年會本部より女子の記念號として發行された雜誌中に、女史の御生涯に付て、其の生地りバデル數會の牧師及女史と八年間共に働かれた米國女子青年會本部總幹事ミス、クラッテーが話された誠に興味深き好い御話が有りましたから其のまゝ茲に譯載する事に致しました。

好き隣人としての女史

故ダッチ女史の社會に對する奉仕の經歴は、極めて些細な事柄から始まつて居ります。女史は未だ一少女の時、其近隣の貧しきもの、惱めるものを訪問し、これらを慰め助ける事を無上の樂しみとして居られました。普通の年若き者と同樣、人生に對しあれこれと空想を畫いて居られた青春時代に、或る日女史は其の母君の許に行かれ「私は自分が生涯なすべき事を見出しました」と云はれたそうで御座います。そして其後女史は他人を助け導くために、己が身を犧牲にせんと決心せられました。これが即ち女

史の光ある生涯の端緒をなしたのであります。
女史のリバデルに於ける第一着の活動は中年の婦人のため倶樂部を組織された事で御座います。この婦人達は誠にこの倶樂部に無頓着で、且其維持等につきて、いろ〳〵の困難があり實に心細いものでありました。然し女史は好くこの困難に打勝ち、遂にこの婦人等をして倶樂部に興味をもたせ、その注意を促すに成功せられました。後、女史は自分の屬する敎會で朝の禮拜に出席する事の出來ない女中等のために、聖書の組を擔任されました。女史の熱心な眞面目な人格と溫かき同情により、女中等は常に女史を姉の如くに尊敬し慕ふて居りました。然し故郷における女史の仕事の主なる紀念物は圖書館で御座います。この創設について、深い興味を感ずるのでありますが　女史は先づ近隣の人々のため數十册の書を集めました、而してその書籍は女史の父君の所有地にある煖室の中に置き當時有名なクリスチアンの一人であつた園丁が其の館主の任に當りました。

女史は又自宅に少女のため、裁縫學校を始められました、先の圖書館もこの裁縫學校も共に大成功を奏し、遂に父君は知人の一人と共と女史の爲に建物を新築されました。かく圖書館も裁縫學校も共に其建物が與へられましたが、非常に是等が當時の民意に適したのとその有益なるがため、二年後には校舍は擴張せられるに至りました。かくて圖書館は其の後、組織された諸種の社會事業の基礎をなつたのであります。即ち衞生組合の如き又は少女倶樂部、文學倶樂部等五六の倶樂部はその一例であります、そして只今はこれ等のために建物が新築され、かの衞生組合の醫局に働く地方出の看護婦等の止宿の用にそなへ、或はかの圖書館を用ゆる事の出來ない倶樂部の本部にあてゝあります。數年の間女史はこれ等の事業を總括した組合の總會を催すために、いつも自宅に招かれました、この集會は年中行事の一つになつて居りました、この組合で女史の役目があまり重立つたものでない時にも、尙女史の天惠的精神は

凡ての場合にゆき渡つて居りました。女史が吾々を離去つてしまつた今日、なほ以前より如何に全社會がダッチ女史に負ふて居るか、又吾々の此働きは實に女史の靜穩且忍耐深き種蒔によつて與へられた收獲である事を痛切に感ずるのであります、然らば女史は如何なる人であつたでせうか。誰も女史が基督教信者で、其日常生活の最も小事に於ても、尙善且忠なる僕、換言すればエスと共に生活した眞の弟子であつた事を慥かに感ずる事なくして、女史を知らうとするのは恰も木によりて魚を求むる様なものであります。

リバデルに於ける貧困なる下級の人々が敎會に導かれたのは實にダッチ女史と其家族の方々の感化によるのであります、故にこの敎會の會衆は他の大きな敎會に比してその會衆の境遇位置身分等に非常な相違があるのです、そして土地の者は皆其の仲間に女史を有する事を非常な光榮と考へて居ります。

普通牧師に對して與ふる會衆の感化を認める者は殆ど皆無と云つて好い位でありますが、この力は實に偉大なものであります。例へば會衆の中に、かれの使命に對し精神的の同情を有する者が二三人でもあれば、實にこれは牧師にとつて何よりも貴い奬勵になるのであります。女史は故里において過さるゝ春期及夏期の間、朝も日曜禮拜に出席せらるゝのみならず、女史の沈默的感化は多大の力を其の牧師にあたへました。そして女史の禮拜に出席して居らるゝ事は、恰も祝禱の樣で御座いました。女史は決して一人で敎會に出席せられた事なく、必ず日曜每に多くの婦人勞働者を伴うて來られました、これが絕へず牧師をして、女史即ち現今の聖徒は世を厭ひて身をさけた隱遁者ではない、この地上に於ける主の仕事に干與つて居る凡ての人類を愛する者で有る事を思ひ起させて居りました。

同働者より見たる女史

ダッチ女史は三十年以上も種々の公共事業に從事

して居られたのですが、尙、其個人的接觸を保持して居られました。幾多の違つた人が皆異句同音に、女史は私の親友であつたと申すので御座います、これは慥に女史が個人的接觸を有して居られた著しい證據ではありますまいか。

誰でも普通に女史にあつて受ける第一の印象は、如何に女史が他人を快く信用せられたかと云ふことであります、この女史の信任は決して受働的のものではありません、自働的のもので、疑もなくこれが多くの人の遲慢なる能力を振起せしめ、彼れにとつて不可能と思はれた事をも、可能ならしめた原因で御座います。人々に對するこの信任は、決して一時的のものや、或は場合によつてのものでなく、永久的のものでありました。

女史の心は云はゞ一種の避難所で、屢々委員會などの時、委員の心配氣な樣子が女史が不意に入て來られた爲消えたと云ふ樣な場合が御座いました、即ち女史は他と非常に違た意見が反對の意見を持て居る人にとつての避所でありました、これは決して徒らに凡ての人を喜ばせ、どれにも圓滑に同意すると云ふ考へがあつたからでなく、女史は洞察力を有する方で凡てを了解し、その廣濶寛大なる心をもつて、偏見を除いてはどの意見をもこれを歡迎されたからであります。

女史は常に希望に滿ち〱て居られました。この希望が其の内で仕事をすれば實に爲易い感じを與へる一種の空氣を創造して居りました。女史は物事を十分洞察して居られたたにも拘らず、希望を有して居られた樣に思はれます。私が女史をはじめて知つた以前既に、女史はいろ〱の經驗に富んで居られましたが、其の大部分は矢張り高い價をもつて買はれたものであると云ふ事は女史の御言葉で明白で御座います、此經驗により女史は唯目前の事をのみ考へず、遠き將來を見る習慣と、物事は必ずよき結果を來たすものであると云ふ動かすべからざる信仰を得られたのであります。これが爲女史は常に希望に滿

ちて快活でありました。

女史は又理想家で御座いました。そして其の種々の計畫に對しては、常に他人の懷疑批評不信、時としては欺弄をさへ受けて居られましたが、女史のこの理想は不思議に皆實現されて居るので御座います。女史は其の責任を絶對的に主んじられた方であります、女史にとつて或る役目を擔當すると云ふ事は、女史一人でそれをなす樣に豫期されて居らうがなからうが、其の役目が課する全責任を果たす事でありました。

又女史は能く物事に對抗せられました。女史が不意の出來事や困難に當られた立派な勇氣は、要求せられて出る經過的の力ではありません。女史は第一に仕事に着手する時は、この勇氣を持つて居なければならないと云ふ事を知つて居られたのであります。この勇氣に對しては不思議な、反對の傾向ですが女史は常に自分の能力を疑ひ、自分の意見に關して少しも自信をもつて居られませんでした、女史は眞に謙遜でありました。そして他の者が始めた仕事の計畫などは細かしい事にまで非常に興味をもち其の仕事の發展して行く樣子をも興味をもつて見てをられましたが、決して計畫やその他に命令的の言葉を發せられた事はありません、又提議も餘り致されませんでした。女史は誰にでも同情をもつて聞き、又他人の仕事を寛大に賞讃し、必ず其の好結果を奏すべきを信じ、これを奬勵されました。女史が他人に對して餘り忠告がましき事や、說敎がましき事を避けられたのも、矢張りこの謙遜に依てゞ御座いました。

女史は物をなすに敏速で、實に時間を正確に守られた方であります。然し女史は決して他の者に敏速に事をなす樣に要求せられた事はありません。過ぐる日私は丁度市內の事務所で開かれる或る會に出席するため、電車に乘らうと思て出かけました時、同僚の一人に出逢ひました、それからその會の開かれる建物の昇降機の處で、他の道から來た矢張私共の

事務所からの二人の幹事に出逢ひました、私共四人は會の始まる時刻を事務所で待つて居りました。暫らくして委員長はまあ貴女方は何時も私より先に被居いますね、どうしてさう出來ますの」と云ひ乍ら入つて參りました。何故でせう、即ち私共がダッチ女史と共に仕事をして居た八年の間、女史の掌つて居られる何れの委員會でも一度として、遲く始り、又は閉會すべき時間になほ閉會せず長びかすと云つた樣な事は斷じてなかつたからであります。若し私共が團體として事を敏速になす特殊の習慣と、時間に關する新しき觀念を得なかつたならば、かゝる事は、不思議に思はれるでありませう。

女史は非常に忍耐深くて、絶へず靜恬でありました、これが爲女史と共に働く事は實に氣樂な仕事で御座いました。女史は元來衝動的の人でありましたから、待つ事を學ばねばならなかつたのでありますが、遂にこれを學びえられました、而して唯、目前の事のためでなく、遠く未來の爲に考へて働かれました。女史が他人に對しての忍耐は實に信じ難い程のものでありました、女史は非常に組織的の方でその用務を時計の樣に精密にあてはめてある日々の時間割に從て、事務を處理されました。無論これは女史が處理された仕事の多かつた爲、餘儀なくされたからでもありませうが、これが女史の本性でありました、然し女史は他人が如何に其の仕事に緩慢、不規則であつても、これに對し不快な樣子は毫も見出す事は出來ませんでした、この說明は決して困難ではありません、即ち女史は友人としてでなければ誰とでも共に仕事をする事を好まれず、又出來なかつたからであります。

畢竟これは初めに申しました奇論の說明ではありませんか、如何なる團體もダッチ女史に取ては普通の團體ではありません、友達の集で御座りました。

ダッチ女史の組織されたある倶樂部の會員各自に一月一度手紙を書くと云ふ事は、數年間女史の習慣

でありました、其の手紙は皆同じ文句ではありますが、倘、各自に違つた個人的の言葉が附加してあります。左に掲ぐるものはその手紙の一つで、女史の日常生活をよく描出してあるのを感じます。

「常に健康でよく笑ひ、多の人を愛する者、聰明なる婦人の尊敬を受け、小兒の愛を得る者、いかなる仕事をもこれを成就し、自分が始め見出したよりも以上に好き世界として殘した者、或はこの地上の美を味ひ得、且これを表はすにあやまらない者、常に他人の好い處を見、自分の持て居る最のものを與へる者は皆必ず成功を樂しむ事が出來ます。かゝる人の生涯は一種の靈感を與へるもので御座います。」

（正子譯）

◎温故片々

○鞅掌　五經の中の詩經に「或は王事に鞅掌す」と云ふことありて其職掌を大切にすること負ふがごとく荷ふが如く容つくらうと暇なしとの謂なり鞅は荷ふなり掌は物を捧ぐるなり。夫より轉じて俗語に、いそがはしく非事に從ふを鞅掌すといへり。

河井總幹事の消息

（四月二十九日羅府發信）

桑港に於ける私の一週間は非常に多忙でした、船が港に入ると波止場で、太平洋岸地方女子青年會總幹事ミスジエンスと他に二人の幹事の方及び安孫子よな子様に御目に懸りました、税關では何も別に面倒な事はなかつたのですが、唯私の落花生と豆と煎餅の鑵の多かつた爲め、税關の役人達に大笑ひをされましたのみで御座います。上陸して後少し落ち付いたと思ふ間もなく續々訪問客を受け、夜は安孫子よな子夫人に伴なはれて、ソーンと申して博覧會の開催されて居る間、種々の面白い見世物のある處にメキシコの踊を見に參りました。次の日は沼野領事夫人、岡本御夫妻、ミスペレーなどが御訪問下さいまして、沼野夫人の御宅で中食の御馳走にあづかりました。それより安孫子夫人と御一緒に桑港日本女

子青年會の會長小室かね子夫人を訪問いたしました、夕方六時頃、通りの目まぐるしい雜沓と自働車のひつきりなしの往來に、ほと／＼疲れ果てゝ歸へりました。

大博覽會が開かれてからは十錢均一の乘合自働車などが出來ましたこの自働車に乘る事が又漫遊客や博覽會見物人の非常な娛樂の一つで御座います、市内商業が如何に繁忙を極めて居るかは屹度皆樣には御想像も付くまいと思ひます、銀座の通りと申しますが、なか／＼これに比ぶれば物の端でもありません。沼野夫人がその御宅で私のために、わざ／＼歡迎會を開き、多くの米國淑女を相客にお招待下さいました。そしてこの席上で十五分間あまりお話を致しました。日本人女子青年會でも歡迎會を御開き下さつたのでありますが、一時間も御話を致しましたから寧ろ講演會と云つた方がいゝかも知れませんその翌日は役員會に出席し、いろ／＼大切な事柄を計畫し或はそれの相談を致しました。土曜日の朝は太平洋岸地方青年會委員會が開かれ、其の席上で東京青年會會館の爲五千弗を募集するに付、西北部地方青年會にもこの働に協力せられん事を願ふ事に決議されました。又日本及び合衆國青年會の働と其働き人の關係に就て長々と討議致しました、又この委員から私の仕事の豫定をこしらへて戴きました。そして五月は羅府とその附近、六月は桑港及其附近で過す事に決定されました。六月二十三日から七月五日までは西北部地方青年會の夏期修養會に出席し其の後七月一ぱいはシヤトルと其の附近で働く筈で御座います、八月にはアシロマにある二つの修養會に出席致します、から並べて見ますとこれ丈の事をするさへ私には時間が足りない樣に思はれます。

トロントに居られたミス、ウオーカーは只今は桑港に參つて居られますが、新聞で私の名を御覽になるや否や私を訪問せられ、一夕食事を共に致しました。ラスゲータスのブリッグス夫妻もわざ／＼私のために桑港に來られ一日中食を共にして戴きました

眞實にこの方々の御親切には心から感謝を致しました。私もこの方々の豫定の仕事が終つたら、休暇をとる代りにこの方々を御訪問申上げたいと思つて居ります。
日曜日には日本の教會に參りました。そして歸へり道に英語でおつとめをして居る佛教の御寺を通りましたので、安孫子夫人と津田次郎氏と私とが一寸中を覗いて見ましたがその中に、符呪でもするかと思はれる怪しげな白人が、煌々したけば／＼しい色のアラビヤか印度風の佛衣をきて居るのを見受けました、聽衆は二十五人か三十人餘りで日本人は一人もなく、皆米國人で御座いました。如何なお說教をして居たか知りませんが、兎も角この米國の社會でかゝるものが今日哺まれて居るとは、如何しても考へられないではありませんか。月曜日には教育館にある統計を見る一時間足らず博覽會を覗きに參りました、それからエンゼル島に參りました、この島は桑港灣の中にあつて他國からの移住民又は渡米者で、其の旅行劵に不審があるもの其他いろ／＼の不都合のため上陸をゆるされない者を收容してある處で御座います。四時半の最終船が出るまで此處に居りました、今はこゝでの御話を致す時がありませんが、船が入つたら又參るつもりで御座います。
此の移民事業と相提携して仕やうとして居る横濱女子青年會の計畫を御話しましたが皆が之れに大賛成で御座います、そして最早や既に桑港に於ける數人の知名な人々とこの事について討議をするやうに約束を致しました。この夜桑港を後にして羅府に參りました。羅府青年會幹事ミスタピング及び二三の方が停車場までわざ／＼御迎へに御出で下さいました、私共は直ぐに同市の女子青年會に參り、こゝで紀念の撮影などいたしました、それから私はミススミスの御宅に參りました。ミス、タピングは昨日十時頃又來られて、五時迄いろ／＼御相談をいたしました、今朝はミス、スミスの妹君の每日通學さるゝオックシデンタル大學を參觀致しました、そして同大學にある女子青年會のお部屋を拜見し其の會長

にもお目に懸り、昨年のクリスマスに東京の青年會兩寄宿舍に、チョコレートをいたゞいた其の御禮を申しました。歸へつてからミス、スミスとミス、タピングはある東洋の學生を訪問に出かけられました其の留守に私はこの手紙を書きはじめました、私もと誘はれたのですが五六通の手紙もかゝねばならず、今晩と明朝の委員會のためにも考へて置かなければならないので、お斷りをして止まる事に致しました其の晝はこの家のお隣りのミス、スミスの叔母君のお宅で中食を戴き、その後で御家族といろ〳〵面白いお話を致しました。今日は家中の方が留守の爲私が膝の上でこの手紙をかいて居る間玄關の呼鈴と電話のお返事をしなければなりませんでした。

ミス、スミスは東京青年會のため五百弗を下さいました、私が此處に參ります以前にミス、スミスはこの金額を下さるお積りだつたのです、それでこれはミス、マシユーの御働きによるので私の働きによるのではありません。これにつきミス、マシユーの御盡力に感謝致します。こゝでは皆がミス、マシユーの御噂を致し、私もミス、マシユーの御名前を申せば、大變受けがいゝのです。

皆さんは私が今晩から、かの總會の開かるゝアレキサンダーホテルにまゐる月曜日まで何を仕樣として居るとお思ひになりますか。此處は實に靜かで心持のいゝお宅で、ミス、スミスと一所に居るのは殊に結構ではありますが、仕事をする時間がないので、どこか日本人のホテルに轉じ其處で、同居の日本人がいかに幸ひに心地よく暮して居るか或は貧しく暮して居るかを見るつもりで御座います、此處は女子青年會が其の階下の一室を事務所にあてゝ居る山陽館と云ふホテルで御座います。若し時が許せば二三日の間苺摘みの一群に加はりその一人として働いて見度いと思ひます。

此處と桑港における日本の牧師方が私のために、種々の計畫を立てゝ下さるのですが、大きな集りや歡迎會などには餘り私をお使ひ下さらない樣に願つ

て置きました。
歸へり道に移民事業を研究するため。ホノヽルに暫く逗留する事に定めました、常方に來る途中、ホノルヽ青年會幹事松澤氏にお目にかゝりましたが同氏も、ハワイに居られて日本人に多大の興味を有せらるヽスカッダー博士は、どうしても、この問題及び其の情況を視察研究するには、少なくとも一月は滯在しなければならないと申して居られます。

川俣女子青年會休養所

田丸よね子

只今の當川俣女子青年會休養所の會員は工女よりなつて居りまして其の數八十六人と他に休養所に編物や裁縫の稽古に參る小學校の生徒十五人餘りとがをります。女工の勞働時間が五時から十時迄で御座いますから、休憩所に參るのは晝の一時間の休み中のみで御座います。そして參りました間は編物や裁縫の御稽古を致して居ります、參ります者の數は一定して居りませんが毎日平均三十人から十五人位までヾ御座います、冬の寒い間は道が雪の爲わるいので參るものヽ數が少なう御座いますが、暖かくなれば數も增して參ります。この他に製絲場の女工が十五人計り夜の七時から八時まで裁縫の御稽古に參ります、この製絲場の女工は四月から十一月までの間は其勞働時間が朝六時から夜六時半までヾ御座いますので右の時間に休養所に參る事が出來ます。毎週土曜日のは晝に四十分餘り御集りを開き、牧師の講演を御願ひ致します、大抵廿人あまりの會員があつまります、又凡ての工場が一月に二回の休日を女工達に與へて居りますので、この時を利用して集會を開きますが、この日は僅なれども三十人あまりは集まります。私が今日連れて參りましたこの少女は矢張り工場に務めて居つた者で、最早や其の約束の年限が終つたので上京したのですが、この少女は昨年の六月受洗しました。求道者は他に少數居ります

が眞の信者は千五百人の女工中、この少女唯一人で御座います。

川俣における工場の數は全體で百三十あつて其の中六十四は小さな工場で御座います、働いて居る女工の數は千五百人で其の年齢は十三四才から二十五六才までゞ御座います。一般工場の勞働時間は前にも申しました樣に午前五時から午後十時までの長時間で、其の間の休憩時間は食事の時の十分乃至十五分と正午一時間あるのみで御座います。其の給料はどうかと申しますと大抵一人前働いて一月七八十錢十三四才の糸くり女は一月三十錢位で御座います、勿論食事は工場より與へ、又一年に二度着物を與へるので御座います、この少女は川俣でも最も苛酷な工女に滿五ケ年二ケ月働いて居つたのでありますが十分仕事に熟練を積んだ後も七八十錢の給料で御座いました、此の約束の年限の終つた後も尚、工場で働くものは食費一日十二錢を拂ふので御座います、これ程に安い食費で御座いますから、女工の食事のいかに粗末なるかは御想像が御つきになるだらうと思います。かゝる有樣故一月五錢の青年會費を徵集する事は氣の毒で御座います。矢張りかう云ふ子供でも會費を拂はぬと云ふ事は心苦しいものと見えて、會費は少しもかまはないと云ひきかせても、參り難いやうに見へて可哀想に思ひます、此等の女工は大抵義務敎育も終へて居ないものが大多數で、終へて居るものは僅かばかりで御座いますから假名がやう〳〵讀めるか讀めない位ひの程度で御座います。當地では其の兩親が普通に學校にさへやるよりは工場で働かせる方を好んで居ります、そして幾度小學校の先生方が家庭を訪問して子女の入學を勸誘しても頑として耳をかたむけないと云ふ有樣で御座います、然しどの女工も皆溫順しくてよくお話を聽きますから、實に可愛らしいので御座います。

この女工の勞働時間について信者の工場主は、この勞働時間を短縮する方が却つて工場の經濟上にも有利である、その理由は時間が長ければ女工達が

皆倦怠してその仕事に不熱心になる結果、出來上りに瑕疵が多いので却て不利益であると云つて居られますが、矢張り其仕上げや女工の上には注意を拂はず、唯金儲にのみ腐心して居る工場主が多いため、未だ其の短縮は實行されて居りません。

終りに川俣の教會は實に微力なもので、信者は男子十人と女子が私を合せて三人、この他に求道者の婦人が二人あるのみで御座います、併し日曜學校は可成り盛大で百人餘りの兒童が參ります。今年三月教會と休養所とが合併いたしましたが、これからは何れも少しは盛になる事かと思ひます。兎に角忍耐して神様の御力の豐かに加へられん事を絶へず祈つて居るので御座います。

五島の薫り

木岡莞爾

U嬢に『洗禮を受けてはならぬ』との電報が親元から届いて、一時受洗を見合すと聞いた時。彼を知れる人々は其の小さき心の痛みに同情したが。彼は健氣にも次の日曜日に洗禮を受けた。友の二三は此兩親の冷き堅き心の碎けるやうに祈つたのであつた。後日彼は斯う云つた。初め父が洗禮を許せられたとの妹の手紙により、洗禮志願書を差出したのであつたが、今となつて不承諾とは不思議である是非とも洗禮を受けたい、よしや兩親の勘氣に觸れても、此汚き罪深き身を、どうして此儘で措かれやうかと、父には自分の決心と天父に奉仕する事が正しい道であり、又兩親に對して孝道を全うする所以である事などを、眞心から流るゝ涙に水莖を浸して、書き送つたのであつた。

十二月二十日午前十時過ぎ、父と子と聖靈の聖名により、Uにバプテスマを施すとの牧師の崇嚴な宣言。ヨルタンの水一滴二滴三滴は彼の全身全靈を潔くせられた。彼は翌日學校の試驗があつた。受洗の歡喜に受驗の準備も出來なかつたが、答案は不思議にも其の感謝のハートから糸を繰り出すやうに、すら〱と書けたのであつた。

數日後父より受洗の悦びを認めた手紙の末に、洗禮不承諾の電信は母が打つたのであると書いてあつた。父が喜んで異れたのは何より嬉しいが、母の心の解けぬのは何となく氣がゝりであると、彼は涙で言葉が淀むた。

此程芽出度學校を卒へ、家事科の教師として、長崎縣下五島の島影に女俊寛となつた。

彼は或る人に宛てた手紙に、久々歸郷した光景が叙してある。親

子の愛情と、信仰の不一致とが、窃に心の内で戰て居る。寔に同情に堪えぬ。

　私の受洗の事から、其の後一回も便りを手に致しません母は、どうかと懸念致して居りました其の母までも、大喜びで歡待して呉れました、其の時は私は何とも云ふ事の出來ない感がして、何の爲めか自分にも知る事の出來ない涙が流れて參りました。

　私は四日の午后山口發の汽車て、新生活を致しました。其の日は丁度日曜日に當つて居ります爲に、是非禮拜に出席さして貰ひ度いと存しましたが、折角機嫌のよい母の心を曇らす事を恐れて此心の弱い私はとふ〳〵云ひ出す事出來ず、唯教會の前を通ります時、默禱して參りました。心弱い私には母の顏を見ては、言葉を出す事が出來ないのであります。自ら信仰の薄弱な事を叱つて見る事も御座います。此上は蔭で祈て、祈の聽かれる時を待つより外に途はないと存じます。

唯彼は溫き家庭の內にも、斯やうな十字架を負ふて居るのである彼は孱弱き女性の身ながら、信仰の第一歩に犧牲といふ險坂を攀ち上つた。其の重荷は斯うである。

　始め定つて居ました赴任地は柳井津でありましたが、私の仲のよい友達の某が、五島へ參らねばならぬ事になつて居りました。其の友は遠方の方で、五島迄行く事は出來ないときゝません。先生も大變お困りになりました、そこへ私が伺いましたものですから、先生は私にどうか五島へ赴任して呉れまいか、人を一人助けると思つて承諾して呉れとの折り入つての頼み。一度はお斷りもして見ましたが、どうしても先生かお氣の毒又友の心情も察し。自分さへ〳〵辛抱すれば先生も安心が出來、友も喜ぶであらうと。私さへ〳〵といふ心が先に立つて、とう〳〵赴任する事に主任の先生迄申上げました。先生のお喜びは申す迄もなく、多くの友達も私の爲に同情して呉れました、けれども私は往きました。幾度か自分の心を叱りましても〳〵、涙は裏切りするばかりで御座いました。十五日の禮拜に參りまして、○○先生のお話をうかゞひ。何だか殊更に私の爲にでもして下さる樣な感じがして、どんなにがうれしく心强く。私には南の島に行くべき大なる使命のある事を思はれまして、それからは氣が霽れ〳〵して參りました。

彼の外文科の一人も、U孃の義氣に感じて命の儘五島へ赴任する事となつたが、之も或る教會の信者であつた。又既に在校の女教師の一人も信者である事が分り、三人がうれし泣きに泣いたと書いてあつた。此三人は實にや五島に降つた天使、白百合の薰りである。『人その友の爲に己の命を捐るは（犧牲となるは）是より大なる愛はなし』（約翰十五章十三節）泣け讀者、祈れ五島の爲に。

牧者の詩（つゞき）

ウヰリヤム、アレンナイト作
河口正子譯

秋共の想像が、全く此の渇ききつた羊が、心行くばかり水を呑んで居る光景の上に走つて居る間に、偶然、私は再び静かに家内が御茶を入れて居るのに氣付きました。そして私共がかの山中の一幅の繪をいろ〳〵に想像して居る時、親切な家内は熱いお茶を客人にすゝめました。彼には輕く會釋してこれをうけ静かに一口啜て、後、又微笑みながら語り初めました。

「エホバはわがたましひを生かし」君、こゝでこのたましいと云ふのは、ヘブライ語では生命或は自己と云ふ意味であることを御存じですね。」

とかれは私の方に向きなほつて言をかけ、後、皆の者に語り續けました。

「羊の産する所では、至る處に羊にとつて危險な場所があるのです。そして羊等は其の危險を避ける事をどうしてもおぼえません、それで羊牧者は絶へず注意に注意をして居なければならないのです、又彼處此處に個人の所有に屬する畑や庭や葡萄園があります、そして若し萬一、羊がかう云ふ所に迷ひ込むと其の羊は其の畑なり庭なりの持主に沒收されてしまうのです、それ故「わがたましいをいかし」と云ふのは羊牧者が私共を連れ歸へり、恐ろしい致命的の場所や禁じてある所から私共を救ひ出してくれると云ふ事を意味して居るのです」

「さまよへる時かへし給ふ」と云ふのが讃美歌の一節にありますね」と私は言葉をはさみました。

「さうです、さまよへる時かへし給ふ」とは確かにそれなのです」とかれは答へました。

「御名の故をもて我れを正しき道に導き給ふ」私は屢々若い時、羊の産地を巡歴して羊のために正しき安全な道を撰ぶ事はいかにも困難な事であると云ふ

事を實見した事があります。一例を擧げれば、一つの道は斷崖絶壁に行き、一つは羊がかへり道を見つける事の出來ない樣な、場所に行つて居ると云ふ風ですから、羊牧者は始終其の先に立つて、自分が羊牧者であると云ふその名を誇りがに、正しい安全な道に羊を導いて行くのです、」

尙、非常に「危險な場所」の內にも、正しき好い道があるのです、「たとひわれ死のかげの谷をあゆむとも」是れがこの詩篇が羊牧者の生活の中のこの事實に觸れて居る事を示して居ります、斯樣に谷を名づけたのは全く私共の國に好くあてはまつて居ります。私の家のつい近くには、盜賊の谷とか、大鳥の谷などと呼ばれて居る處がありますが、死のかげの谷と云ふのも、私の國の古い習慣から引ひて名づけたものです。」

「汝われと共にゐませばなり、」これより短い句で、この意味を表す事は出來ません。羊にとつては、其周圍にいかに多くの危險や困難があらうと、それは少しも關係しません、唯、羊牧者がその傍に居ればそれで、羊は滿足し安心して居るのです。全世界に於て煩悶して居る人々に對する平安を、これより美しく描出した繪が他にあるでせうか。

「羊牧者がその傍に居ると云ふ事が、如何に羊の幸福にあづかつて、力あるかを、御話するには、私がこれから御話を仕樣として居る珍らしい、事柄より他に適當な說明を考へ出す事は出來ません。これは羊の群が好んで賴つて居る、普通の注意よりは、全く以上のものであります。然し私は實際其れを一度ならず再三目擊したのです。

「羊牧者と其の犬が絶へず注意周到であるにも拘らず、時折狼が群の中央にあばれ込んで來る事が有ります、かゝる場合羊はこの不意の襲擊にあつて驚愕措く處を知らず、狂い廻つて走るものもあればとぶものもあると云ふ風で、全く舊にかへす事が出來ません。其刹那敵は群の弱い羊の咽喉もと目がけて咬み付くのです、然し羊牧者が附いております、

かゝる時にさへ、彼れは如何に處置すべきかを十分に心得て居ります。即ち好く見えもし又聞こへもする岩や小丘をとび歩きながら聲をはりあげて、オーオーと狼の叫び聲のやうな聲を出します。すると、この聲を聞いた羊は、自分の羊牧者を思ひ出して、其方に注意をむけます、そして御話するのも不思議な樣ですが、今迄は恐怖の念にかられて居たこの哀れな臆病な動物が、忽然全力を注いで密接に群がつてしまいます。そして其の壓力には流石の狼も全く抵抗する事が出來ず、遂に負けてしまふのです。且屢々狼の方が鏖殺される事さへあるのです。この間羊牧者は岩の上で、なほオーオーと叫んで居ります「禍害をおそれず、なんぢ我と共に在せばなり」。彼は暫く言を止めて返事を豫期して居るやうに、代る〲私共の顔を見つめました。

「さうですね、私共はたしかに、凡ての事に於て、私共を愛し給ふキリストによつて、征服者よりも、以上に力あるものです。」と私はとう〲口を開きました。これに對して彼れは、默つて滿足げに頭を下げました。

「汝の杖、汝の笞」これも又人生によくあてはまつて居ります。そしてこの二つとも、共に擁護的注意を表はして居るのです。羊牧者は羊を導くために一本の杖と、これを防禦するために武器として、一本の棒をもつて居ります、即ち一つは平和な道を通つて必要な場所に導いて行くため、一つは盜賊猛獸等の危難に出逢つた時これを防ぐためなのです。これが實によく「汝われと共に在せばなり。」と云ふ言葉の中にどれ丈の意味が含まつて居るかを表して居ります。」

「扨汝の杖、汝の笞われをなぐさむ。」次のこの言葉は何と說明したらいゝでせうね、さうだ、奥さん!!! 貴女は羊がこの言葉の意味をよく、了解せんがために、羊牧者の近くに蹲つて居る樣子を御覧になるべきですよ。羊牧者のターアアー、ホーオーと云ふ呼び聲と、これに答へて急いで來る羊の足音とは、此

騒々しい世の中で神の御聲に注意して耳を澄まして居る人に、神が如何なる慰安を與へたまうかを表はすに、最も適切なる響だと思ひます。そして私の國ではかう云ふ音を丁度昔この詩が詠まれた時と同じに聞く事が出來るのです。」

恰かもこの響がきこえるかのやうに、暫く默つて考へ込んで居りました彼れは、静かに興奮したやうに痩せた手を上げて、又語りつゞけました。

「扨貴兄姉方が羊牧者から宴會の場に轉じて、それがため羊牧者の十分に行き届いた注意の極致を失つてしまうのは此處なのです。」

今私共は云ふまでもなく、特に熱心な傾耳者になつたのであります、何故かと云へば、其の客人は遠方にあるかれの故郷の種々の回想で全く熱しきつて居りましたし、私共は將にこの世界的詩歌の寶藏に秘してある、最も珍しい寶玉から輝き出た新らしい光を見樣として居た樣に感じたからであります。

「汝わが仇のまへに我がために筵をまうけ」客人はこの句を口吟むだ同じ静かな落付いた聲で附け加へました。

「オー！この詩篇の中で宴會場のがはじまると共に、羊牧者の完全した熟練と豪勇とが失はれて、唯室内の宴會のみがこれに代ると考へるのは實に殘念な事です。」

かれは再び暫時沈默の後語りました。

「筵と云ふ事は此處では唯、何か擴げた物と云ふ意味で、即ちすつかり用意の出來た食事を云ふのです。私の國では羊牧者が絶へず場所を研究し、草を吟味し、自分の羊のために好い安全な牧場を見出すと云ふ事は、羊牧者にとつて最も尊い大切な仕事で、これがため往々羊牧者のあらん限りの熟練と、大いなる勇氣を要する事があります。即ち草の中にはよく澤山の毒草が混生して居りますから、羊牧者はこれを見つけて避けなければならないのです。羊も或る毒草は食べませんが中には羊が好んで食べる。特種の毒草もあつて、私の從兄などはこの難しい仕

事を一寸あやまつた爲、三百匹の羊を全く失つた事もあります。」

「それから又ある所には蛇の穴が澤山あつて、若し其の蛇を逐ひやつて置かなければ、蛇が羊の鼻を咬むのです、それで羊牧者はよく蛇を逐ひやるために地面に豚の油をもやします。又羊牧者は土龍が丁度地の表面の直ぐ下まで、穴を掘つている所を見出します。かう云ふ穴にはよく蛇が草を食べに來る羊を咬うと鎌首を振り立てゝ待つて居るのです。羊牧者は羊に先立て來る時に、如何にして蛇を逐ひやるか其方法を知つて居ります。」

「かう云ふ風にして羊牧者が用意した牧場のぐるりの穴や山際の洞窟などの内には、豺や狼豹などゝ云ふ猛獸がかくれて居るのです、そして羊牧者が石をもつて其巣窟に忍びより、或は小刀で猛獸を殺したりする時には實に羊牧者の勇氣と熟練は其の絶頂に達して居ると云ふ事が出來ます。羊牧者が其の群に對する注意の内で、この點に成功した時が最も自慢をするのです。

「もう」と彼れは恰かも其の群のために、自分の身を犧牲にする心細き羊牧者の勇敢なる行動を認識するやうに辯論でもして居るかのやうに、輝いたおももちと抑制したやうな感情をもつて叫びました。

「もう今は『汝わが仇の前にわがために筵をもうけ』と云ふこの精巧な句の中にある、羊牧者の光景を、御覧になる事が出來るでせう。」

「ハーもう好くわかりました、そしてこの浮世の荒浪逆卷く中で我々人類のため、いろ〱、心を用い給ふ神の御惠は、室内での宴會で席を與へ給ふよりも、一層宏大なものであるといふ事も知りました。」

と私は答へました。

「然し頭に油をそゝぎ、盃はあふるゝといふのは、どう云ふ事を意味して居るのですか。」

「オー!! こゝに其の日の終りの最も美しい光景が始まつてるのです。この詩篇は徘徊する一日中の全體の有様、即ち羊が要する凡てのもの、云ひかゆれば、

羊牧者が其の群のために要する凡ての注意をうたつて居るのです。こゝで此の詩篇が其の日の最後の光景をもつて終つて居ります。

羊の牢の入口の處で羊牧者は羊を通してやるために自分の體をむけなほして立どまります。即ちクリストが「われは羊の門なり」と仰せになつたやうに、羊牧者が門になるのです。羊が牢の中に入つて行く時、羊牧者はその杖で羊をとめて、一匹々々檢査をするのですが彼れは橄欖の油を一杯入れた角製の盃とシーダタールをもつて居ります、そして羊牧者は、岩角に躓いたり、荊棘にひつかゝれたりした足に油をつけてやるのです。そして少しも傷いては居ないが、唯疲れきつて居る羊が來れば、氣を爽快にする橄欖の油で、其羊の顏と頭を洗つてやります、それから彼れは手の二つ付いて居る、大きなコップに、そのために用意してあつた水瓶から、溢るゝ位に水を入れて疲れて居る羊に呑ませます。

この詩篇の内でこれより美しいものはありません、神の心づかいは唯傷いたものゝためのみならず、又疲勞しきつた者のためである事が御解りでありませう。

「わが首に油をそゝぎ給ふ、わが盃はあふるゝなり。」

「今申した樣に一日が終つて、羊が皆牢の中で心地よく眠る時、無數の星が燦爛と輝いて居る空の下にこれより他に如何なる滿足、いかなる休息がありませう、即ちこゝに羊等が今は終つた一日の徘徊の後これを經驗する樣に、「わが世にあらんかぎりは必ず恩惠と憐憫とわれにそひきたらん。」といふ深い安息と慰安の思想があらはれて來るのです。

神が十分に見守つて氣をつけ給ふ靈魂が、その一日中徘徊きまわつた事を眠つて居る間にわすれない前に、われとこしへにエホバの宮にすまん」と云ふこの感謝に滿ちた祈誓を囁くと共に歌は終るのですがこの誓は決心即ち 聖い誓であります。さあ!!

此處で歌は終り、羊等はよき羊牧者の牢の中で安全

に休むのです。」
私共が此夜からこの詩篇を、シリヤの客人の歌と、名づけましたが、讀者諸姉はこれを不思議に御思ひになるでせうか。（完）

辻村靖子

春夕
たらちめのははましまさぬ戀しさの
　　身にしむものか春の夕くれ

山
もゆる火をうちにつゝみて不二のねの
　　動かぬすかた高くもあるかな
いたゞきは手にとるばかりみえなから
　　まだ程とほし不二のかけみち

春興　兒らか紙鳶をとばすうなりをきゝて
我かどの柳そよ吹く春かぜに
　　いかのぼるなり青雲の上に

つゝじ　名をやしほと云ふは、日光の山の奥よりきりいづとぞ。籠に入れて市に賣れるを見て
枯柴とみゆるつゝじのいづこにか
　　ふくめば花のやしほなるらむ

籠の花

二つの山彦

子供は子供が好きなものです。ですから今子供諸君にも子供のお話をしやうと思ひます。

太郎のお家は丘の傍で、程遠くない處には、大きなお池がございました。お池の向ふ側には又他の丘があり、こんもりした森になつて居りました。太郎はまだ向ふ側へいつて見たことはありませんでしたが、よくお池から眺めては、向ふ側ことに森の中には何があるかしらと思つて居りました。

或日太郎はお家の丘の頂上に立ちまして、お池の向を眺めながら、考へて居りました。その時太郎はふと、獨語を申しました、ところが向ふの丘から、誰かが返事をしたやうに思ひました。それで太郎は一寸耳をすましましたが、何も聞こえませんので、

『オーイ』

と云ひました。すると向側からも

「オーイ」
と云ふ聲が聞えました。而もそれが自分のと丸で同じ聲でございました。太郎は『向ふ側に他の子が居るんだな』と獨語を云ひました。そして、其の子はどんな様子をして居て、どの位の大さでどんな子なのかしらと思ひました。太郎はぢきに又
「オーイ」
と叫びました。すると向ふでもまた
「オーイ」
と同じことばです。太郎は向ふの子が鸚鵡返しの返事をして、自分を馬鹿にするんだと、ムッとしました。
「君はイヤな子だ」
と太郎が叫ぶと又そのとほりに
「君はイヤな子だ」
といふ返事です。太郎はなほ〳〵憤って
「僕は君が嫌いだ」
といふより早く、向ふでも
「僕は君が嫌いだ」
と叫びました。太郎はどん〳〵走けて、お家へ歸つて、お母様に、お池の向ふのわるい無遠慮な子のことをいひつけました。

小供諸君、お母様は何とおつしやつたとお思ひなさいます？ お母さまは唯お笑ひなさつて、太郎に、も一度行つて、親切にその子に話してごらんなさい、その子がたのしい返事をするかもしれないから、と仰しやいました。

太郎はまた丘の頂上へいつて
「オーイ、君」
と云ひますと、すぐに
「オーイ、君」
といふ返事です。その時太郎はお母さまのお言葉を憶ひ出して
「君は善い子ですね！」
と云ひますと
「善い子！」

と云ふ返事が聞えました。太郎はうれしうございました。そしてお母さまが仰しやつたとほり、向ふの子は善い子だつたかもしれない、たゞ自分が親切に話さなかつたのだと思ひました。少し經つてから太郎は又云ひました。今度はかう云つたのです。

「僕は君が好きです」

すると向ふ側からは、荒つぽい言葉の代りに

「君が好きです」

と云ふのが聞えました。

そこで太郎は向ふの子は、太郎自身の反響みたいなものだと思ひました。つまり自分が愉快に話せば、向ふも氣もちのよい返事をする、意地のわるい返事が來るときは、自分が意地の惡い時ばかりです。太郎ばかりではなくて、私達もこの通りでございます。向の子と云ふのは私達の反響でございます。愛すれば愛が來ますし、親切は親切を伴なつて來ます。そして、誰の世界もみんな自分で造るものなのです。

（松葉子）

彙報

◉第十回夏期修養會

日本基督教女子青年會が主催して毎年開催する女子夏期修養會は本年も昨年の如く相州横須賀大津村勝男館に於て開會する筈にて會期は七月二十一日より二十八日迄にて目下當該委員に於て準備中なり。會の順序組織等は大抵例年の通りにて本年の講師には博士新渡戸稲造石原謙、博士鵜澤聰明、金森通倫、山室軍平、高野重三、今井壽道、外村義郎、星野光多、横田貞治其他諸氏を依頼せり。出席希望の向は可成至急本部、申込ありたしとのこと。

◉中央委員會

五月八日午後二時半より本部に於てミセス、ヒッシャー司會の下に開かる、當日の出席者はミセス、フッシャー、ミセス、クレメント、津田梅子、藤田貞子、ミス、ウエスト、ミス、マクドナルド、ミス、マシユ

ー、ミス、カフマン、ミス、オズグード、伊藤菊子、ミス、レーガン、河口正子にてミセス、クレメントの祈禱をもつて開會し先づ前回の記錄、臨時委員記錄、及會計報告幷に河井總幹事の旅行のため作成されたる費用計算書等の朗讀あり何れも受入可決さる。續いて左の諸報告及議事あり。

(イ)支部加入　この程加入したる上田梅花幼稚園保姆傳習所、弘前女學校、及東洋英和女學校の三青年會を加へて支部數二十三となれり。

(ロ)横濱女子青年會　幹事ミス、ベーカー不快にて缺席のため、伊藤菊子代りて報告す、聖書の組、英語の組、讃美歌の組、及日曜學校等は凡て從前の如く開かれ、毎日晝の時間には四人の會員定まりて休憩室に來る、土曜日は十三四人あり。

(ハ)東京女子青年會　好友園幼稚園にては去る三月二十七日第一回卒業式を擧行し、十二名の卒業生を出す、目下四十五名の園兒あり、一週に三度午後二時半より五時まで、近隣の子供のため好友園の庭を公開し、有志者これを監督す、凡そ四十人餘りの子供來りて遊ぶ、これにより道路にて遊ぶ子供を減じたる程なり。二月下旬好友園のため鈴木のぶ子氏の同情ある發起により音樂會を開催し純益金四百圓〇二錢を得たり、又中央ステーション內に旅行者の爲一室を得たり。又兩國品川等其他附近の各停車場に旅行者の友の告示を掲げ、旅行者の注意を促せり、各停車場に働き人必要なれ共、特に品川にこれを要す、又神田東京女子青年會々館のため尙ほ八千圓を要す。

(ニ)雜誌　五月號は千四百七十五部を出版し、千四百五十部を發送す、米國加州サクラメント女子青年會は五十部づゝ購讀す。

(ホ)夏期修養會　四月一日に開かれたる修養會委員會記錄朗讀し、昨年と同じく大津に於て七月二十一日より二十九日まで開催さるゝ事、及修養會順序の大體決定されたり。

(ヘ)川俣女子青年會休養所　同休養所を經營せる田

丸よね子氏本部を訪問して語られし川俣に於ける同休養所の働及工女の生活狀態

尙ほミスマシユーより米國加州に於ける日本婦人に關して見聞せし事柄の報告あり。

又雜件として

神戸ミスソールより來る十月は恰かも神戸女學院の創立四十年紀念祭の行はるゝ時なるを以て、十月の中央委員會は神戸にて開くやうにとの招待狀來りし事。

萬國女子靑年會長ワードグレーブ夫人より遣英日本赤十字社看護婦の歡迎につきての來狀。

ミス、エマーソン、サイベリヤ線にて七月日本に渡來の筈。

ミス、ワトネ三月一日結婚し七月下旬日本に來らるゝ筈。

萬國本部より歐洲諸國の靑年會の困難なる事、其がため祈禱の必要なる事、及び瑞西、白耳義等の靑年女子のため殊に働を始めし事につきて通知ありたる事。

等の報告あり。次に英國本部よりの要求に對し本年度萬國祈禱週間に於いて日本のため特に祈るべき題目を中央委員より提出す。

感謝　一、日本國民間に眞面目なる靈的覺醒の催されし爲

二、好友園旅行者の友等により社會的の働の端緖を得たる爲

三、東京靑年會中央會館の與へられし爲

新禱　一、與へられし好友園旅行者の友及中央會館等を十分有功用ひ効果を奏せしめんがため

二、東京靑年會中央會館のため必要なる金額募集の目的の達せられんが爲

ミス、カフマン及びミス、ページを東京女子靑年會幹事に推選の件、津田梅子の動議、ミス、ウエストの贊成を以て可決す。

役員全部及び財政委員改選の件、可決

中央委員に、今西糸子、星野愛子兩名を加るの件、ミス、マッシユー提議し、兩氏の諾否を問ふ事に決す

◉夏期修養會委員會　五月十四日午後四時より第二回夏期修養會委員會を、本部に於て開く、當日出席者は山田千代子、小此木松子、ミス、ウエスト小池實惠、松宮信子、ミス、マクドナルド、大川喜代子、ミス、レーガレ、大呑久子、河口正子にて、修養會順序の大體を定め、其他講演者等を決定して六時閉會。

●●●●●●

◉東京基督敎女子靑年會

▲大正四年度總會　前號所報の如く五月二十九日午

込區納戸町第一寄宿舍講堂に於て開會し會務會計の報告議事余森通倫安部礒雄兩氏の講演ありしが詳細は次號誌上に掲ぐべし。

▲過去一年間の事業

過去一年間の事業報告　大正四年度總會に於て報告の過去一年間の事業報告は左の如し。

東京基督教女子靑年會　は創業將に第十一年に入らんとす。左は過去一年間に於ける事業の大要なり。

會員　一年間に其數二百五十人に達せり、是れ本會の歷史に於て最多數を示せるものなり。

聖書の組　十八組あり、內十六組は女學生の組二組は實務に從事せる者の組なり、總人員二百十二名を數ふ。每週の看護婦聖書の組には平均三十五の出席者あり。會員が近隣に於て開き居れる日曜學校は五にして、兒童は二百餘なり、英語聖書組、日曜午後讃美歌の組各一あり。

寄宿舍　二個の女子靑年會寄宿舍は六十七人を容るゝに足り盛況にして時には入舍志願者の全部を收容するを得ざりき。

旅行者の友　これは大正二年十二月上野驛に開始したり、今は三名の係員ありて上野東京兩驛に於て働きつゝあり。鐵道院吏の好意により東京驛にては旅行者の友係員の爲小室を與へられしにより此室に於て同驛に來る靑年女子に必要に應じて相談、注意を與ふる機會を得る事となれり、本鄕區湯島天神町一丁目廿四番地に宿泊所を設けて臨時の場合に女子を收容せり。事業開始以來十六ケ月間に、一夜乃至以上宿泊せる婦女子の數は百五十四なり、職業を供給せし者八十一、行先への案內、欺僞者よりの保護、荷物の世話、助言等は數百件に及べり。

好友園　大正三年六月小石川區金富町五十七番地に於て開始す、一人の主任保姆と助手とは之が管理の任に當り、女子靑年會委員、會員の幾多は時間と努力とを割きて援助せられたり。目下同園にて行はれつゝある事業は左の如し。

幼稚園	園兒四十五、保姆二人。
日曜學校	兒童八十人餘。
親の會	隔週基督教の講話をなし居れり。
男兒英語の組	二組。聖書の組一。
女兒英語の組	二組。
女子讃美歌の組	一組。

近頃園を近隣の小學兒童の運動場に備へ諸支部の會員は交代に遊戲の監督をせられ居れり。

新築會館　この報告書表面に圖を載せたる新築會館は目下神田區北神保町十四番地に建築中にして本年九月竣工の筈なり。從來の本會は場所の狹隘と設備の不完全なる爲に事業は極限され居たり。故に本會の會員及委員は此の會館を使用するに當り事業の爲に更に大なる機會と、更に廣き範圍とを期望しをれり。本館の內には寄宿舍、集會場聖書教室、委員室、社交室、圖書室、家事部を有す。同館新築費用は我國及び外國に於て既に四萬圓は集りたるも、土地、建物、翌年の維持費として猶壹萬圓を要す。我等は本會の同情者が之を供給せられんことを望むと共に喜んで此事業に一助を與へらるべきを信ずるものなり。

◉横濱青年會の新事業

（渡米婦人のため）

此度横濱女子青年會で、米國加州桑港日本人女子青年會と相提携して、外國殊に米國に渡航せらるゝ方々の便宜を圖る働を始めました、渡米なさるゝ方は直接横濱女子青年會か、日本基督教女子青年會本部に御照會あらば出來るだけの便宜を圖ります、同會にて渡米婦人の爲に發行したる注意は左の如し。

◎新に渡米なさる御婦人方への御注意

△アメリカに御良人をたより、又は修學のため渡航なさる御婦人方の中始めて御旅行の方に乘船の時から上陸までの心得を左に申し上げます。御承知の如くアメリカの風俗習慣は日本のと違つてゐるので其れが爲め未だ外國行の船にお馴れでない方は色々な不便もあり一寸した事で恥をかくやうなこともあり、外國人の誤解を招くやうなこともありますから、どうぞ此處に書いてあることを能く御覽下さい。

△乘船の際　神戸、横濱其他の諸港からアメリカ行の便船に御乘込の際には第一旅券及行先の宿所、姓名とを英文で認めたものを忘れぬやうに御注意なさいませ。

△着物類　お召物は洋服が一番宜しいが、アメリカでは其時々の流行がありますから日本でお拵へになる時は金のかゝらぬ間に合せの物を拵へ、上陸の後にゆつくりと新調なさるのが宜しい。日本服で乘船するも差支ありませぬが、靴下の長いのと、靴だけは是非穿いて入らつしやい日本の足袋で下駄や草履などを御穿きになりますと脛や足が見えていけません、西洋人は胸から下部の肌膚を他人に見せるのを非常な恥辱とする習慣ですから必ず肌が現れぬやうな服裝が必要であります。それから洋服ならば上着と帽子と手袋を忘れてはなりませぬ。

△荷物　お荷物はトランク（西洋櫃が一番よろしいそれでなければ支那カバン、或は皮製のカバンが宜しい、若し柳行李ならば革帶の掛けてある物（繩でからげるのは見苦しくて不便です）信玄袋は内地の旅行には調法ですが、外國旅行には不體裁です、旅行中の必要品は御化粧道具、手拭、ハンカチーフ、着替への下着上着、（洋服ならば上着一枚、下着若干）靴下などですが此外煩はしい餘計な道具はお持ちなさらぬが宜しい。

△便船　御乘込の便船は日本船でも米國船でも宜しいが、なるべく壹貳等へお乘りになるのが宜しいと思ひます。併し旅費の御都合で三等にお乘りの方もあるでしようが、船客としての等級は異ひましても貞淑高尚な人柄を保ち外人の侮りを招かぬやうな心がけが肝心であります。

△船中の客室　船中には等級に應じて種々の室がありますが、男子と女子とは別々の室に案内されます、便所も男子と女子のは別になつてをりますから御婦人は男子の室に入つたり、男子の便所に行かぬやうに注意なさいませ。或る婦人は男子の室に出入して意外の疑を招いたことがありますから、この點はとりわけ深くお愼み遊ばせ。

△甲板上の心得　運動のため甲板に御出の節は身たしなみを奇麗にし取り亂した風をせぬやうに遊ばせ、特に前に申しましたやうに肌

や足の見えるやうな服裝をしてはいけまぬ。船の中は各國人の集る所ですから一寸した事から諸外國の人の笑物にならぬやう御注意なさいませ。

△上陸の際　上陸の際はそれ〲の手續きがあります。特に移民官の取調べがありますから其節は目的を明瞭にお答へなさい。米國官憲では惡性の傳染病の他は決して日本人の上陸を拒むやうなことはありません上陸の際及び上陸の後も御必要の事がありますれば何時でも親切にお世話をいたしますから女子青年會に御申越しなさいませ。又御上陸の際には日本人會の役員又は牧師が色々なお世話をなさいますから面倒な事は遠慮なく御聞き下さい。

又桑港女子青年會の規則書を要する方へは送呈します。同青年會の場所は左の通です。

Japanese Y. W. C. A.
1120 Gough Street,
San Francisco, Cal.

●傳道女學校青年會　御無沙汰致しまことに申わけなし惡しからず御許し下され度、實は早くから御通知申上ぐ可きの處、當會都合のため、今日まで失禮致し居りし次第、誠に〲會員と致し恥しき事に存じます、何卒御ゆるし被下ますよふ願ひます。

當年の會員數は新入生もあり五十名程になりました事は全く神の御恵と存じ、ます〲當青年會のために及ばず乍働く積りで御座います、何卒當青年會の爲め御祈り下さいますよふ御願ひ致します役員は左の如くに決定致しました。

會　長　下村ひさ　　書　記　十文字たつ
會　計　横邊みえ

昨年末から御願ひ致して置きましたが、未だにどなたも御出なく實はあまり私共の本部へ對しての御願ひの足らざるように存じ尙もつて今日御願ひ致します今度何卒御返事下さいますやう御願ひ致しますどなた樣にもよろしく、御講演を願ひ度會員一同よりの御願ひで御座います。

●青山女學院青年會　今年度の青年會新役員左の如くに御座候。

會　長　大塚まつみ　　書　記　大崎しづえ
會　計　馬場目なか
第一部々長　山本かつ　　傳道部々長　宮田とよ
宗教部々長　内村きわ　　矯風部々長　大平　秀
勤務部々長　小林きみ　　社交部々長　伊藤けい

第二部々長　井戸谷子　傳道部々長　大槻みね
宗敎部々長　長谷川その　矯風部々長　吉岡きく
勸誘部々長　佐藤千代　社交部々長　深澤ゆり
手藝部靑年會部長　高橋なほ
宗敎部々長　山室ふみよ　勸誘部々長　畑山德子
社交部々長　石田かつ
會計　林よしゑ

●米國加州櫻府日本人女子靑年會　拜啓

貴會益々御淸榮の段奉賀候、毎回御會御發行の女子靑年界御郵送被下會員は申すに及ばず購讀者一同非常の興味を以て拜讀致し居り候。御蔭にて當會も日增隆盛に赴き候、一兩日前音樂演藝會を催し多大の功果をおさめ申候。當夜の演奏者には日本人、西洋人、黑人等ありて女子靑年會の主義を發揮仕申し候入場者も立錐の地なき迄にて非常の盛會に有之候、純益百廿餘圓を得申候、本會は未だ一定せる事務所なきため不便を感じ居り候も愈々事務所をも設け、進んで專任幹事をもと計畫中に御座候。今月まで百部宛御願ひ申候ひしも、來月分よりは五十部宛に御願ひ致し候、金五弗雜誌代として御送り申上候間、御受取り被下度候。

●神戸女學院靑年會　當靑年會新學期よりは

會長渡邊きみの、會計宮島きく、書記杉浦久代と定まり申し候、新らたに多くの會員を增し、一同感謝いたしつゝ會のために盡さんと致し居り候、殊に傳道委員は各金曜日の第四校時には從來の如く仕事を致す事をつゞけ居り候、いろ／＼相談致し候末、遂に仕事は一定いたしたる方却て成績よからんとの事にて、昨今は卷がみつぎのみを致し居り候、都合上六の委員（傳道委員を除く）三分致し番に當りたる委員は必ずその時間に出席致し候て傳道委員を助くる事と定め申候。これは既に實行いたし居り候、その他同委員に寄宿舍にて鑵詰、卵などの販賣を致し幾分の利を得る事に致し候、又讀書委員の働きの一として世界のキリスト敎の形勢を知り時々これを會員に知らしむの働きをも加へ申し候、其の他の委員にては別に申上ぐべきほどの變動も御座なく、從來の如くに候。既に御承知の如く前學期にて市内の交換

手を招き候て、思ひのほかの好成績を得、皆々感謝致し申候、これを縁と致しいよ／＼親睦致さんとは兼ね／＼の計畫にて候が、去る九日日曜日を幸ひ先づ十名を招き、宗教上の話、讃美歌の稽古などを致し、或は靜かなる裁縫に或は圖書室に、とり／＼に殘りの時間を過し、實に樂しき一日を送り申候て、一同神の御めぐみの我等の上に豐なりし事を感謝致し候、以後も矢張りこれを續け人數も二十名と致す心組みに御座候。

●宇都宮クリスチヤン女學校青年會

櫻は早や葉のみと相成り申候へ共、百花咲き亂れ誠に心地よく覺え候、折から皆樣には神樣の御恩惠の御許に御健かに御働き遊ばさるゝ御事と存じ賀し奉り候當會も神の御護りにて無事に候まゝ御安心被下度候。其後は遂一回の御報告も申上げず失禮のみ申上候、扨當會にては會員の卒業生もあり、新入生も御座候ため今學期新會長及び書記會計を選び、會員二十七名となり申候。しかして例會は毎月一回之を行ひ又毎夜七時より會員一同の集會を開き居り候。日曜日は禮拜前、當會にて設けし市內小幡町六道町との二ヶ所の日曜學校に行きて毎週總數九十名以上位づゝの生徒を敎へ居り候又日曜日の午後や他の日に於て時間の御座候場合、病院に於ける患者を慰め草花を贈りなどいたし居り候。過日中小幡町の日曜學校の生徒一名死去いたし候。其の生徒は年五歲の男子にて、學校設立以來一日も休まずに參り申候ため讃美歌をもよく覺えて誠に愛らしき子供に御座候ひき。然るに神の御召しか彼は痛のため只一夜にて、永眠いたし候、其の時に神樣は御榮を彼の上に與へ給ひためか、死する時に日曜學校の約束の歌及び四百十八番の讃美歌を歌ひ、二三度日曜學校に行き度いと叫びて死せしとの事に御座候、さて死去いたし候後に父母が彼の所持物の檢査をいたし候處、箱の中に日曜學校の紙とカードをよく保存いたし居り候由、これによりて父母は神の御愛をさとり、父は每日聖書をひもとき日曜學校は其の家に於て行ひ居り

候。私共はこれにより深く小兒が家庭に傳道致すその効の大なるを覺え、いかに日曜學校の必要なるかを感じ神に感謝致しつゝ、そのために活動いたし居り候。尚今年は會員も多く御座候へば大いに會の盛大を計り、神の御榮をますく\現はし度きものと存じ、委員一同其のためにつとめつゝこれあり候間、御喜び被下度候。

●基督教婦人矯風會新運動

本誌五月號にも掲載せし如く、婦人矯風會にては京都に於て大會を開きしが其際の決議に從ひ今秋御擧行あらせらるゝ御即位式の大典に際し、永遠に聖き紀念を殘さんと「御大典奉祝の爲に催せる一切の公開の席上に醜業婦を侍せしめざる事は勿論、其他凡て風俗を紊亂する行動の取締を嚴重にせられん事を其筋に請願する事、及び精神的紀念運動として今後六年を期して公娼全廢を期する事の二ケ條を愈々、今度具體的に實行せらるゝ由なり、これにつき既に首相大隈伯も大いにこれに賛成せられ、社會一般この種の働きの必要なるを認め機運將に熟したる時なれば必ずその成功を見るべきを信ず、而かも尚眞に全智全能なる御神の大なる力のこれに加へられん事を切に祈つて止まざる所なり。

消息

○田丸よね子　川俣女子青年會休養所創設者たる同氏は五月上旬、川俣某工場にて滿五ヶ年の勤務を終へて此度上京せし一少女を伴ひて本部を訪問さる。

○ミス、ベーカー　不快のため目下信州輕井澤に靜養中。

○ミス、ミリケン　女子學院教授なる同氏は母君御病氣御危篤のため、四月二十四日歸米の途につかる。

○和田とま子　今回御結婚の上四月上旬米國シカゴに向け出發さる。

○新渡戸琴子　病氣全快全く健康に復せらる。

○花岡いく子　今回津田氏と結婚せられ五月下旬南米ペルーに渡航の由。

○井上チトセ子　四月下旬より英學塾研究科に勉學の傍ら本部の事務を助けらる。

○寺内ぶん子　五月下旬名古屋縣立第一高等女學校に赴任。

○藤田まさ子　同じく高知市高知縣立高等女學校に赴任。

○ミス、ページ　夏期中休養の爲五月廿八日出　歸國さる。

讀者便り

○遠くから『女子青年界』の來る日を

岡山　藤浦初音

何かととりまぎれて御報申上げることがおそくなりました、おかげ樣でこの四月女子高等師範を卒業致し此所で働くことになりまして御座います、かざりのない田舍て、かざりのない子供を相手に御心のまゝに幸福に働いて居ります、東京で御催しのいろ〳〵の集りには向ふことは出來ませんが遠くから『女子青年界』の來る日を月の[illegible]ることにおまち申上げることゝ存じます、何分よろしく御願ひ申上げます。

○身に餘る幸福を受けて居ります

鹿兒島　大西靜子

カードと『女子青年界』をうれしく頂きました、『女子青年界』はもう隅から隅まで拜見いたしました。そして皆樣がいろ〳〵な方面に御熱心にお働き遊していらつしやることが次第に盛になつて行くのを見てありかたくうれしく感服いたしました。私が當地に參りますについて皆樣が御祈り下さいましたことは、身にしみてうれしく存じて居ります。お蔭で當地に參りましてからは身にあまる幸福をうけ、おめぐみに浸つて居りますのでむづかしいつとめも何とかつとまつて居ります河井先生、植村先生に御目にかゝつた樣な氣がいたします。皆樣と女子青年界のために祝福をお祈り致します。

○毎號あます所なく拜讀いたし候

東京　加藤さく

一拜復御會の御事業益々世界的機關として御發展偏に上よりの御惠にあはせて委員諸姉の御熱心なる御骨折による事と感謝に不堪候。殊に『女子青年界』は私にとり唯一の友と相成り毎號あます處なく拜讀いたし候御教へのかず〳〵、我がものに致し度くつとめ居り候、扨近況をとの仰せにもよらずば反省する事もおこたり勝ちなる自己の存在、誠に御はづかしく未信者ゆゑの無責任なる事も數々ならんと今更、罪深きを感じ申候。別に事新らしく思ふ程の事とてもなく、二人の小さき者を相手に樂しく暮し居り候。

私の日々の務は何れもの御家庭をひとしかるべしと存じ候、樂しみとしては稀れに讀書位、先は平凡生活に外ならずと存ぜられ候へども美しき神の、御惠のみ滿足いたし居り候。子供の宗教心も種子を培へば、それ丈は早く發芽する樣思はれ候まゝ、四才の長女丈でも日曜學校につかはし度いのみ居り候。いろ〳〵申上げ度き事山々これあり候も十日程前より長女發熱いたし始めてのわづらひとて、なか〳〵手がかゝり小さきものまで控え居る事とて日夜忙がしく、いづれ後日あらためて申上ぐべく、此度はよき經驗にあはせて、これなれる神の御攝理を感じ申し候。

○先生でざつたからおいでエんしエー

盛岡　岡村花子

皆樣益々御機嫌うるはしく種々な御事業に御盡力の由嬉しく存じます。私も御蔭樣にて健やかに毎日感謝の中に樂しい日を過し居りますから御安心下さいませまし。當地に轉じましてからも別に困る樣な事もなく、三ケ所にある日曜學校分枝に可愛子供等と共に歌ひ共に祈り數ふるを重なる務と致し居ります。大概三十名から五十名位づゝ集まり

まして、子供等も其の日を樂しみにして居る樣に見えます。子供等は私を見ますと直に大聲に『先生ござつたからおいてエんしエー』と申ます、そう致しますと彼方からも此方からも驅け出して來まして私の後について來る樣子は丁度パイドパイパーのそれの樣で御座います。何の經驗もなく暖い學校から出た計りの身には、亂暴な子供に逢つて悲しくなつて歸る時もありましたが今はそんな事もなくなりました。母國を離れて此樣な不自由勝な異郷に只獨一人で來て我同胞を救に導く爲に喜んで働らいて御出になる外國の宣教師を思ふ時に、如何樣なつらい事もなくなります。そして何卒一人でも多く我同胞を御導き致し度いと勉て居ります。何卒皆樣外國人の手を待たずに、御近い方を御救に御導き下さる樣御願ひ致します。終に皆樣の上に神の御惠みの豐ならん事を祈り上げます。

○次の御發行が待遠ふしく感ぜられます

川俣田丸よね

變らさる御恩寵の御下に先生始め皆々樣御機嫌よう御榮の爲に御活動の御事と御嬉び申上げます。過日は本部に參上致しまして種々と篤き御言葉と御待遇に預り誠に有難く感謝致して居ります。私などは若も主に連りませんでしたなら、先生方に拜顏を得る事さへ思もよらぬ事であつたらうと存じます。又有益なる御本を澤山頂戴致し有難く存じます、教會員求道者にも御目にかけ私も拜見致しまして、御教訓を與へられて居ります、喜びの音づれは毎夜裁縫を教へながら工女に聽して居ります、皆喜んで聽いて居ります。毎度『女子青年界』によつて慰と光明とを與へられて居ります。特に孤獨同樣の私にとりましては次の御發行が待ち遠ふしう感ぜられます。男子の信者にも御進め致して居ります　、御婦人の愛讀者の與られん事を祈つて居ります。當地の工場は相變らず午前五時より午後十時までの勞働時間で御座いますが、一週間計り前から成績のよい工女丈特別に夜九時より仕事をやめ十一時まで裁縫を習ひに參つて居ります、其熱心に勵されて一層工女を救濟せねばならぬ事を教へられ如何にもして神の御力により彼等が救はれ其勞働時間も適當のものに改めらるゝ樣祈り求めて居ります工女等は絶えず時間の減ぜらるゝ事を願求めて居ります。暑中になれば一層其苦痛を増との事て御座います、何　この可憐な工女の爲皆樣の御祈の端にも御加へ下さいます樣切に御願ひ致します。何の修發もなく力もなき私は時々自分を顧みまして御恥しく、私の樣な者が何故尊ひ傳道などゝ云ふ御命令を輕々しく御受致したのであらう、却つて御榮を後け天國の擴張を妨けて居るのではなからうかと思ひ苦痛に堪えぬのであります。併し又苦痛の中にも御慈愛と御恩惠々を一層深く味ふ事を感謝して居ります。この樣な身をさへ御憐み下さいまして尊ひ御事業の端を働かしめ給ふを思ひますれば、殊更に青年會の今日の働を與られました事を感謝して居ります。若し休養所の働が與へられませんでしたら私は只自己のために尊ひ時間を空費して居りましたでせうと思ひますと、此事業のために一層身を捧げて働く樣に少しの時間でも自分のために用ひない樣に致したいと祈り求めて居ります。何卒弱い妹の爲に御憐をたれ給はん事を祈つてかまないので御座います天父の御祝福御働きの上に先生方ならひに御會の上に豐にあらん事を御祈り申上げます。

○會友會費領收（本部報告）

金壹圓也

島田 はつ（四ノ六―五ノ五）　青山 英子

金貳圓也

坂本 花代（四ノ五―五ノ四）　ミセスラング（四ノ六―五ノ五）

○雜誌『女子青年界』代金領收

金七拾錢也

中川 清子（四ノ一―四ノ十二）　西田 てる（四ノ三―五ノ二）

葛山 喜代（三ノ十二―四ノ十一）　楠瀬 安惠（四ノ一―四ノ十二）

久村 よし（四ノ一―四ノ十二）　須永 嗣子（四ノ一―四ノ十二）

芝 みつの（四ノ一―四ノ十二）　五味 きく（四ノ一―四ノ十二）

藤田 まさ（三ノ十一―四ノ十）　鈴木 くに（四ノ四―五ノ三）

柳田 しま（三ノ十二―四ノ十一）　鳥居 かな（四ノ一―四ノ十二）

星野 菊子（四ノ六―五ノ五）

フエクス女子青年會（四ノ一―四ノ十二）

上田保姆傳習所青年會（四ノ五―五ノ四）

金貳拾八錢也

内山 やす（四ノ一―四ノ四）　手塚 かつ（同 上）

小林 きみ（同 上）　宮田 とよ（同 上）

玉眞 のぶ（同 上）　青山女學院（四月號四冊代）

金壹圓也

山田 滋子（四ノ七―五ノ十）　久保田照子（四ノ一―五ノ四）

金五圓六拾七錢也　共立女學校（大正四年四月號八十一冊代）

金拾圓拾五錢也　櫻面都青年會（大正三年十二月分百部代）

金參拾錢也　長谷雄三郎（先月分殘金）

金參拾五錢也　藤浪 豐子（四ノ一―四ノ五）

金參圓五拾錢也　渡邊 ふみ（三ノ十一―四ノ九）

金貳圓拾錢也　ウヰルミナ女學校青年會（四ノ二―五ノ一 三冊ヅヽ）

金貳拾壹錢也　岩崎 うめ（四ノ五―四ノ七）

電話 番町四五六三

日本基督教女子青年會本部

東京市牛込區田町三ノ十二

振替 東京貳參七貳參

見よ!!! 我が國唯一の日曜學校雜誌

月刊 **日曜學校**

一部金拾錢(郵稅共)
一年分前金壹圓(同　)

第十號要目　(六月十五日發行)

發行所 日本日曜學校協會本部
東京市京橋區銀座四の一敎文館內
振替東京一八〇〇四番

National Committee

Headquarters. 12 Tamachi Sanchome, Ushigome, Tokyo
Mrs. Hana Ibuka, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-Chairman
Miss Tami Mitani, Secretary
Dr. Tomo Inouye, Treasurer
Miss Michi Kawai,

Active Member World's Committee

Resident Members	Non-Resident Members
Miss Ume Tsuda	Madame Asa Hirooka, Osaka
Miss A. B. West	Mrs. Koito Saiki, Kyoto
Miss Uta Suzuki	Miss M. F. Denton, Kyoto
Miss Kita Hasegawa	Miss Michi Matsuda, Kyoto
Miss Sarah Ellis	Miss Yoshi Kajiro, Okayama
Miss Chiyo Yamada	Miss K. Tristram, Osaka
Mrs. E. W. Clement	Miss Susan Searle, Kobe

Secretaries

Miss Michi Kawai, National
Miss A. C. Macdonald, National,
Miss Ruth Ragan, National Office
Miss Margaret Matthew, General, Tokyo
Miss Mary Page, Associate, Tokyo
Miss Emma Kaufman, Associate, Tokyo
Miss Mary Baker, General, Yokohama

本誌定價

一部(郵共)	一ヶ年分
金七錢	金七拾錢
海外 金拾壹錢	金壹圓廿錢

廣告料

一頁	半頁
金六圓	金三圓五十錢
四分ノ一 金貳圓	一行 金貳拾錢

大正四年五月廿八日印刷納本
大正四年六月一日發行

發行所 東京市牛込區田町三丁目十二番地 日本基督敎女子青年會
編輯兼發行人 東京市牛込區田町三丁目十二番地 河井道子
印刷人 東京市芝區櫻田和泉町七番地 前川吉次郎
印刷所 東京市芝區櫻田和泉町七番地 三成舍

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

June, 1915

The regular meeting of the National Committee was held May 8. Most of the time was given to reports. Miss Matthew talked about the conditions among Japanese on the Pacific Coast and the necessity of some kind of work being done for Japanese women about to go to America.

Mrs. Tamaru, the former Yokohama Association member who went to Kawamata, a factory town in the north, was in Tokyo a few days ago and gave the following information: there are fifteen hundred girls in one hundred thirty factories, and these girls range from twelve to twenty-five years of age. They work from five in the morning till ten at night, with one hour at noon. One spinning factory closes at six-thirty in the summer months. The girls of twelve receive thirty sen a month, girls of seventeen from seventy to eighty sen. The factories of course furnish food and clothing. There are two holidays a month. The girls have had no education, most of them being scarcely able to read *katakana.*

Although these girls have so little time they manage to run to the rest rooms for a few minutes at noon, and there are eighty-six members paying five sen a month. Fifteen girls from the spinning factory go in the evenings for sewing lessons. In the other factories those girls who are especially diligent are allowed to stop work at nine o'clock, and they spend two hours after that time at the rooms. Mrs. Tamaru has begun to read to these girls while they sew. There are special meetings on the holidays, and regular evangelistic meetings Saturday noon.

The neighborhood house of the Tokyo Association is doing what it can to meet the needs for play in proper surroundings, and has opened a playground to children three afternoons a week under the supervision of several Japanese young women who have volunteered to take charge of the games and help the children to learn to play together. Although such a small beginning forty children are kept off the street three times a week.

Miss Kawai has written of plans for her work in America which already more than fill her time. Some of the sidelights are interesting. On the way home from church she and a friend looked in on an English service in a Buddhist temple. A weird-looking American man dressed in Hindu or Arabian robes of many bright colors was giving the benediction. Twenty-five or thirty Americans were the congregation,—no Japanese. Miss Kawai also writes:

"What do you think I am going to do this evening? I am going to move into a Japanese hotel and see how poorly or how comfortably they are living. I must get my meals outside as there is no table board. If time allows I hope to join a gang of straw-berry pickers for two or three days and work like one of them. I should like to be in a Japanese camp, but if that is impossible I shall try the poorest inn near by."

安井哲子新著

久堅町にて

有田四郎氏裝幀

四六判赤地布製
定價金壹圓
送料内地八錢

久堅町は著者永住の地、著者はここに讀書し、ここに靜思し、ここに筆を執ります。

著者はあくまで冷靜であります。穩健であります。或は論說、或は感想、或は隨筆その形式は異りますが、著者の人格、著者の趣味性、著者の眞面目は半言雙句のうちに躍動してゐます。

著者の思想のいかなるものなるかを知らうとする人、又婦人界一方の代表的思潮を窺はうとする人々は、是非一卷を坐右に備へる必要があります。書中清新の氣、潑溂たる感じが漲り溢れてゐます。

佛蘭西語自修書

杉本伊作氏著

定價金八拾錢（郵稅八錢）

東京京橋尾張町貳丁目

警醒社書店

振替東京五五三番

女子青年界第拾貳巻第六號
大正四年五月廿八日印刷納本 大正四年六月一日發行 明治卅七年五月七日第三種郵便物認可